

秘



法律取調  
委員  
會

民法草案再調査案議事筆記 第貳卷

日本學術振興會



民法再調査案筆記 第二

日本學術振興會

XB300  
N 2  
5 b

日本學術振興會







ルニハ共同債務者ノ文字アルヲ可トス可決ス

第四百七十四條 利害ノ關係ヲ有スルト否トチ問ハス第三者ノ爲シタル辨濟ノ有効ナル爲ノニハ債權者ノ承諾ヲ必要トセス但作爲ノ義務ニ關シ債權者カ時ニ債務者ノ一身ニ着眼シタルトキハ此限ニ在ラス

右同一ノ場合ニ於テハ債務者ノ承諾モ亦之ヲ必要トセス但利害ノ關係ヲ有セサル第三者ノ辨濟ニ付テハ債務者又ハ債權者ノ承諾ナキトキハ其辨濟ハ成立セス

(粟塚)本條第二項「又ハ」ハ「及ヒ」ノ誤ナリ(松岡)前案ニハ第三者ノ代位辨濟ヲ承認セサルコトトナリシニ現案ニテハ其意味ヲ顯ハサス(元尾崎)前案ノ儘ニシテハ如何(松岡)右同一ノ場合ト云フハ利害ノ關係ヲ有スルト否トチ問ハスト云ヘルヲ指シタルモノナラン

民再調二ノ二

第四百七十五條 代理ノ委任ヲ受ケスシテ辨濟ヲ爲シタルトキハ第三者ハ辨濟ノ爲メ債務者ニ得セシメタル利益ノ限度ニ應シ之ニ對シテ求償權ヲ有ス但法律又ハ契約ニ依リテ債權者ノ權利ニ代位スル場合ヲ妨ケス

(粟塚)本條第三者ノ上「トキハ」ハ衍文ナラン

第四百七十六條 義務カ定量物ノ所有權ノ移轉ヲ目的トスルトキハ其物ノ所有者ニシテ且之ヲ讓渡スノ能力アル者ニ非サレハ引渡其他ノ方法ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス  
他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ當事者各自ニ其辨濟ノ無効ヲ主張スルコトヲ得

讓渡スノ能力ナキ所有者カ物ヲ引渡シタルトキハ其所有者ノミ辨濟ノ無効ヲ請求スルコトヲ得

右執レノ場合ニ於テモ債務者ハ更ニ有効ナル辨濟ヲ爲スニ非サレ



ハ引渡シタル物ヲ取戻スコトヲ得ス  
債權者カ辨濟トシテ受ケタル動產物ヲ善意ニテ消耗シ又ハ讓渡シ  
タルトキハ債務者ハ其取戻ヲ爲スコトヲ得ス  
又債權者ハ他人ノ物ヲ以テセル辨濟ヲ認諾スルコトヲ得但眞ノ所  
有者ヨリ回復ヲ訴ヘタルトキハ債務者ニ對スル擔保ノ訴權ヲ妨ケ  
ス

(栗塚) 本條第五項受ケタルハ受取タルトスヘシ可決ス(清岡)  
一 第一項引渡其他ノトアルハ引渡又ハ其他ノ方法トシテハ如何  
(栗塚) 引渡ト云フハ一ノ方法ナリ

第四百七十七條 辨濟ハ債權者又ハ其代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス辨  
濟ヲ受クルノ分限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ト雖モ債權者カ之  
ヲ認諾シ又ハ之ニ因リテ利得シタルトキハ有効ナリ  
(栗塚) 本條ノ受クルトアルモ受取ルトシ受取ノ上「辨濟ヲ」

ト云フ三字ハ必要ナキヲ以テ刪リタレ可決ス

第四百七十八條 眞ノ債權者ニ非サルモ債權ヲ占有セル者ニ爲シタ  
ル辨濟ハ債務者ノ善意ニ出テタルトキハ有効ナリ

表見ナル相續人、表見ナル包括承継人、記名債權ノ表見ナル讓受  
人及ヒ無記名證券ノ占有者ハ之ヲ債權ノ占有者ト看做ス

(栗塚) 本條第二項表見トナルトアルヲ其他ノトシテハ如何可  
決ス(清岡) 讓受人ノ上表見ナルノ字モ無用ナルヘシ(栗塚)  
讓受人ノ上表見ナルト云フハ記名債權ノ表見ナルト云フ意味ナ  
レハ必要ナリ

第四百七十九條 受クルノ能力ナキ債權者又ハ債權占有者ニ爲シタ  
ル辨濟ハ其債權者又ハ債權占有者ノ請求ニ因リテ之ヲ取消スコト  
ヲ得但其利得シタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス  
(栗塚) 本條ハ冒頭受クルトアルヲ受取ルトスヘシ可決ス(元



尾崎一債權占有者ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ取消スヲ得ルハ如何一  
栗塚一受取ルノ能力ナキ債權占有者ナレハナリ

第四百八十條 民事訴訟法ニ從ヒ正シク爲シ及ヒ續行シタル拂渡差  
押ノ後債務者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損  
害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ス可キヲ債務者ニ強要スルコトヲ得但辨  
濟ヲ受ケタル債權者ニ對スル債務者ノ求債權ヲ妨ケス

（栗塚）本條ハ正シクトアルヲ正當ニトシ「及ヒ續行シ」ノ五  
字ヲ刪リ債務者カ辨濟ヲ爲シタルトキハトアル上ニ差留ヲ受ケ  
タルトシ強要スルコトヲ得トアル「コト」ヲ辨濟ス可キトアル  
下ニ轉置シ受ケタルハ受取ルトスヘシ（松岡）「差留ヲ受ケタル」  
ノ字ハ挿入セサルモ明了ナリ可決ス

第四百八十一條 債權者ハ己レニ對シテ負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ  
辨濟ニ受ケタルノ責ニ任セス他ノ物ノ價格カ高キトキト雖モ亦同シ

民再調二ノ四

債務者ハ其負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ與フルノ責ニ任セス請求ヲ  
受ケタル物ノ價格カ低キトキト雖モ亦同シ

代替物ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ最良品ヲ與ヘ債權者ハ  
最惡品ヲ受ケタルノ責ニ任セス

（栗塚）本條ハ負擔シタルノ上ニ債務者ノト云フ字ヲ加ヘ他ノ  
物ヲ辨濟ニ受ケタルトアルヲ他ノ物ヲ辨濟トシテ受取ルトスヘシ  
（村田）債務者ノト云フハ蛇足ナリ辨濟トシテ受取ルハ可ナリ  
可決ス

第四百八十二條 雙方一致ニテ物ヲ金錢ニ金錢ヲ物ニ又ハ或ル物ヲ  
他ノ物ニ代ヘテ辨濟ノ爲メ之ヲ與ヘ若クハ約束シタルトキハ原義  
務ヲ更改シタリト看做シ其所爲ハ場合ニ因リテ賣買又ハ交換ノ規  
則ニ從フ

（栗塚）本條代ヘテトアル「テ」ヲ刪リタレ可決ス



第四百八十三條 特定物ノ債務者ハ引渡ヲ爲ス可キ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スニ因リテ義務ヲ免カル但有條件義務ノ危險ニ關スル第四百三十九條ノ規定ヲ妨ケス

債務者ノ費用ニテ物ヲ保存シ若クハ改良シ又ハ其過失若クハ懈怠ニ因リテ之ヲ毀損シタルトキハ替價ハ上ノ第一章第二節第三節ニ從ヒ當事者相互ニ之ヲ負擔ス

（栗塚）本條ハ例ニ依リ有條件義務トアルヲ條件付ノ義務トシ替價ト云フハ價金トスヘシ可決ス（委員長）相互ニト云フハ如何（村田）債務者ノ毀損ハ債權者之ヲ負擔シ債權者ノ毀損ハ債務者之ヲ負擔スヘキヲ當然トス

第四百八十四條 金錢ヲ以テ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ其選擇ヲ以テ金若クハ銀ノ國貨又ハ強制通用ノ紙幣ヲ與ヘテ義務ヲ免カル

民再調二ノ五

債務者ハ法律ニ依リ貨幣ノ名價又ハ純分ニ變更ヲ生スルモ約束シタル數額ヨリ多ク又ハ少ナク負擔セス

本條ノ規則ニ違背スル契約ハ無効ナリ但第四百八十六條第二項ノ規定ヲ妨ケス

（栗塚）本條ハ第一項金錢ヲ以テ目的トセルトアルヲ金錢ヲ目的トセルトシ第二項純分ニトアルヲ純分ノ割合ニトスヘシ（元尾崎）名價ノ變更トハ如何（栗塚）假令ハ天保鑄ハ當百文ノ價格ナリシモ低減シテ九十六文ノ通用トナリシカ如シ（渡）本條ハ前會ニ大藏省ヘ問合ノ答ナリシカ爾後如何ナリシヤ（栗塚）爾後再三研究シタルニ銀行紙幣モ強制通用ナルヘシト云フニテ商法トモ照査シテ不都合ナキニ歸シタリ（清岡）數額ヨリトアルヲ數額ヨリモトシテハ如何（村田）變更ヲ生スルモノトアルヲ以テ數額ヨリトシテ可ナリ（元尾崎）金若クハ銀ノ國貨トア



ルハ補助銀貨ハ包含セサルヤ(南部)第四百八十七條ニテ論ス  
ルヲ至當トス(元尾崎)銅貨ハ如何(栗塚)銅貨ハ貨幣條例ニ  
讓レリ(元尾崎)銅貨ヲ貨幣條例ニ讓リ補助銀貨ヲ同條例ニ讓  
ラサルハ如何(委員長)第四百八十七條ニ至テ論スヘシ

第四百八十五條 右ニ反シ辨濟期ニ於テ諸種ノ貨幣ノ爲替相場ヨリ  
生ス可キ相互ノ高低ノ差ハ債務者ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テ  
平均價額ノ辨濟ニ因リ當事者ノ間ニ之ヲ平分スル契約ヲ爲スコト  
ヲ得

(栗塚)本條ノ契約ハ合意トスヘシ可決ス(元尾崎)平均價額  
ト云フハ市場ニ於ケル平均相場ニアラスヤ(栗塚)兩替相場ハ  
紙幣百圓ニ付キ銀百拾圓金百三十圓ニ對ス故ニ紙幣百十三圓三  
十三錢ト爲ルヘシ(松岡)日本ニ爲替ト兩替ノ區別アリ(元尾  
崎)本條ノ爲替ハ兩替ノ義ナリ(村田)本條ハ干涉ニ失スルモ

民再調二ノ六

ノトス(尾崎)當事者ノ間ニ之ヲ平分スルト云ヘハ填補額ヲ分  
擔スルノ義ナルヘシ(松岡)本條ハ兩替相場ヨリ先ス可キ高低  
ノ差ハ當事者ノ間ニ合意スルヲ得ト云フ意味ニスヘシ(栗塚)  
平分スル合意ノ外諸種ノ合意ヲ爲スニ差支ナシ(元尾崎)本條  
ハ平分スル合意ノ外ニ涉ルヲ得サルヘシ(南部)本條ハ全損ス  
ルヲ得サル義ヲ記シタルモノトス(北畠)假令ハ金貨ヲ借ラン  
トセンニ貸主ハ金貨ノ購買センコトヲ慮リ之ニ應セス依テ借主  
ハ金貨ノ購買スヘキ價格ノ半額ヲ派ヘ之ヲ辨償スヘシト云フニ  
テ借金シタルヲ云フ(南部)本條ハ第四百八十六條ノ如キ全差  
額ヲ支拂フヘキ弊害ヲ押正セントスルニアルベシ(渡)第四百  
八十四條及ヒ第四百八十六條ノ二條ヲ以テ其規ヲ立テ本條ハ只  
其損失ヲ分頭ニスベシト云フニアルヘシ(松岡)然ラス(元尾  
崎)本條ハ削除シタシ(栗塚)平分ト云フニ字弊アリ個ハ七分



三分ノ合意ヲ爲スニモ差支ナケレハナリ(南部)平分ハ填補トスヘシ可決ス(栗塚)法律上ノ貨幣ヲ以テトアルヲ法律上ノ貨幣ヲ以テトスルトシ平均價額ノ辨濟ヲ爲シトアルハ平均價額ノ辨濟ニ因リトスヘシ可決ス(松岡)爲替相場ト云フハ兩替相場トスヘシ(元尾崎)遠隔地ノ兩替ハ即チ爲替ト云フヲ以テ遠近兩様ノ意味ヲ顯サント欲スレハ爲替ト云フヲ可トス可決ス

第四百八十六條 金貨又ハ銀貨ノ價額ヲ以テ負擔ノ金額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ獨リ爲替相場ノ損益ヲ受ケ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ免カルコトヲ得

金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ辨濟ス可キコトヲ約束シタルトキモ亦同シ

外國ノ貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲ス可キコトヲ約束シタルトキハ債務者ハ右ノ規定ニ從ヒ自己ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テ其外國ノ貨

民再議二ノ七

幣ノ價額ヲ辨濟シテ義務ヲ免カルコトヲ得

(栗塚)本條第一項價額ノ字ハ除去スヘシ(横村)銀貨ノ價額ヲ以テト云フハ其原文如何ニ配スヘキヤ(南部)銀幾圓トスヘシ(元尾崎)銀貨ノ價額ト云ヘハ銀幾圓トセサルヘカラサルカ如シ(南部)第一項ハ借金ニ就テ云ヒ第二項ハ返済ニ就テ云フモノナリ(松岡)「ノ價額」ヲ刪ルヘシ可決ス(栗塚)第二項辨濟ス可キコトヲ約束シタルトキトアルハ辨濟ス可キコトノ要約アリタルトキトシタシ可決ス(元尾崎)第一項ハ云々債務者ハ獨リ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ免カルコトヲ得但爲替相場ノ損益ハ債務者獨リ之ヲ負擔スト云フ意味ニシテハ如何(栗塚)第三項右ノ規定ニ從ヒト云フハ前二項ニ從ヒトスヘシ(三島)右ノ規定ト云フハ前二項ヲ指スヘシ(南部)第四百八十七條ハ存在スヘシ(松岡)然リ(清岡)五圓拾圓ト云フ文字ヲ



削除  
建議

置クハ不可ナリ（栗塚）第四百八十七條ハ銅貨及ヒ補助銀貨ハ  
特別法ニ定メタル數額ヨリ多ク辨濟トシテ之ヲ交付スルコトヲ  
得ストシテハ如何可決ス（三島）第四百八十六條第一項銀貨ノ  
價額ト云フハ第二項負擔ノ金額ト云ヘルトハ照應スルモノナレ  
ハ「ノ價額」ハ存在シテハ如何（元尾崎）銀貨ノ價額ト云ヘハ  
銀貨ノ價值ト云フコトトナルヲ以テ不可ナリ

第四百八十七條（賭場削除）

第四百八十八條 金錢ノ貸借ニ特別ナル規則ハ第八百七十八條ニ於  
テ之ヲ規定ス

（栗塚）本條ハ別段ノ必要ヲ見サルニ付キ刪除スヘシ可決ス

第四百八十九條 當事者カ辨濟ノ場所ヲ定メサリシトキハ辨濟ハ債  
務者ノ實地ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス但後ニ揚タル或ル契約ノ場合及  
ヒ第三百五十三條ニ從ヒ特定物ノ引渡ニ關スル場合ハ此限ニ在ラ

第一項  
削除  
建議

ス

自己ノ住所ニ於テ辨濟ヲ受ク可キ當事者カ讒誣ナクシテ轉住シタ  
ルトキハ辨濟ハ其新住所ニ於テ之ヲ爲ス但其當事者ハ爲替相場ノ  
差額及ヒ人ノ往復若クハ物ノ運送ノ補足費用チ一方ノ當事者ニ拂  
フコトヲ要ス

辨濟ノ其他ノ費用ハ債務者之ヲ負擔ス

（栗塚）本條第一項實地ノ住所トアルヲ本住所トシ第二項辨濟  
ヲ受ク可キトアルハ辨濟ノアル可キトスヘシ（松岡）實地ト云  
ヒ本ト云フニ及ハス第二項ノ辨濟ノアル可キトスルモ可決セラ  
ル

第四百九十條 辨濟ヲ爲ス可キ時期ハ第四百二十三條乃至第四百二  
十八條ニ於テ之ヲ規定ス

辨濟ノ期日カ法律上ノ休暇日ナルトキハ辨濟ハ其翌日ニ非サレハ



之ヲ要求スルコトヲ得ス

(南部)本條第一項ハ刪除シタシ可決ス

第二款 辨濟ノ充當

第四百九十一條 一人ノ債權者ニ對シ一該ノ性質ナル數箇ノ債務ヲ有スル債務者カ總債務ヲ全消スルコトヲ得サル辨濟ヲ爲ストキハ債務者ハ辨濟ノ時ニ於テ其孰レノ債務ニ充當セントスルノ意ヲ述ヘ且此充當ヲ受取證書ニ記入セシムルコトヲ得

然レトモ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ債權者ノ利益ノ爲メ定メタル期限ノ至ラサル債務ニ充當ヲ爲シ又費用及ヒ利息ニ先タチ元本ニ充當ヲ爲シ又一分ツ、數箇ノ債務ニ充當ヲ爲スコトヲ得ス

無異議

第四百九十二條 債務者カ有効ナル充當ヲ爲サ、ルトキハ債權者ハ

受取證書ニ於テ自由ニ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但會社契約ニ關スル第七百七十七條ノ規定ヲ妨ケス

債務者カ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ受取證書ヲ受取リタルトキハ債務者ハ自己ノ錯誤又ハ債權者ノ欺瞞アリタルニ非サレハ充當ヲ非難スルコトヲ得ス

(松岡)本條第一項有効ナルノ文字ハ必要ナルカ(南部)有効ノ字ハ存在スヘシ

第四百九十三條 債務者及ヒ債權者カ有効ニ充當ヲ爲サ、ルトキハ當然左ノ如ク充當ス

第一 期限ノ至リタル債務ヲ先ニシ期限ノ至ラサル債務ヲ後ニス

第二 費用及ヒ利息ヲ先ニシ元本ヲ後ニス

第三 總債務カ期限ニ至リ又ハ至ラサルトキハ債務者ノ爲メ最



モ辨濟ノ利益アル債務ヲ先ニス

第四 債務者カ辨濟ノ先後ニ付キ利益ヲ有セサルトキハ期限ノ最モ先キニ至リタル又ハ至ル可キ債務ヲ先キニス

第五 總債務カ何レノ點ニ於テモ相等シキトキハ充當ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ爲ス

無異議

第四百九十四條 上ノ規定ハ交互計算上ノ振込ニ之ヲ適用セス此振込ハ振込人ノ貸方ニ之ヲ記入ス

(南部)振込ハ拂込トシテハ如何(三島)拂込ト云ヘハ株金拂込ト云フカ如キヲ以テナリ(元尾崎)交互計算ト云フハ不可ナリ(渠塚)假令ハ銀行ニ振込又銀行ヲシテ貸出サシムルヲ云フニ付キ妥當トス(清岡)振込ハ振込ニテ可ナリ可決ス

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

民再調二ノ一〇

第四百九十五條及ヒ第四百九十六條 債權者カ辨濟ヲ受クルヲ欲セス又ハ之ヲ受クル能ハサルトキハ債務者ハ左ノ區別ニ從ヒ提供及ヒ供託ヲ爲シテ義務ヲ免カルコトヲ得

第一 債務カ金錢ヲ目的トスルトキハ提供ハ貨幣ヲ提示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二 債務カ特定物ヲ目的トシ其存在スル場所ニ於テ引渡サル可キトキハ債務者ハ其物ノ引取ノ爲メ債權者ニ催告ヲ爲ス

第三 特定物ヲ債權者ノ住所其他ノ場所ニ於テ引渡ス可クシテ其運送カ多費、困難又ハ危險ナルトキハ債務者ハ契約ニ從ヒ引渡ヲ即時ニ實行スルノ準備ヲ爲シタルコトヲ提供中ニ述ブ定量物ニ關シテモ亦同シ

第四 債權者ノ立會又ハ參同ヲ要スル作爲ノ義務ニ關シテハ債務者カ義務履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ述フルヲ以テ足ル



（南部）第四百七十二條第二項實物提供トアル實物ノ字ハ開  
リタシ提供ト云ヘハ實物ナルコト明ナレハナリ可決ス（栗塚）  
本條辨濟ヲ受クルトアルハ辨濟ヲ受取ルトスヘシ

第四百九十七條 右ノ外提供ハ辨濟ノ有効ナル爲メ上ニ定メタル條  
件ヲ具備シ且民事訴訟法ノ方式及ヒ條件ニ從フニ非サレハ有効ナ  
ラス

無異議

第四百九十八條 時期ヲ失セス且有効ニ爲シタル提供ハ法律ヲ以テ  
規定シ若クハ契約ヲ以テ約束シタル失權、解除及ヒ責罰ヲ豫防ス  
此提供ハ付遲滞ヲ防止シ又既ニ付遲滞ノ存セルトキハ將來ニ向テ  
其効力ヲ止マシメ且遲延利息ヲ停ム

（栗塚）遲延利息ヲ停ムトアルハ遲延利息ノ進行ヲ停ムトシタ  
シ（松岡）進行ノ字ハ押入セサルモ可ナリ（栗塚）其効力ヲ止

民再調二ノ一

マシメトアルハ其効力ヲ止メトスヘシ可決ス

第四百九十九條 債權者カ提供ヲ承諾セサルトキハ債務者ハ供託ノ  
日マテニ債務ニ生シタル填補ノ利息ト共ニ辨濟ノ金額ヲ供託物取  
扱所ニ供託スルコトヲ得

特定物又ハ定量物ニ付テハ債務者ハ其物ヲ供託ス可キ場所ヲ指定  
スルコト及ヒ其監守ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請求ス  
供託ノ方式及ヒ條件ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

（栗塚）第一項填補ノ利息トアル「ノ」ヲ刪リ第二項其監守ヲ  
トアルハ其監守者ヲトスヘシ可決ス

第五百條 有効ニ爲シタル供託ハ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且債務  
者カ意外ノ事ニ任シタルトキト雖モ其物ノ危險ヲ債權者ニ歸セシ  
ム

然レトモ債權者カ供託ヲ承諾セス又ハ其供託カ債務者ノ請求ニ因



リテ有効ト裁判セラレ其裁判ノ確定ニ至ラサル間ハ債務者ハ其供託物ヲ引取ルコトヲ得

債權者ノ承諾アリ又ハ裁判ノ確定ト爲リタル後ト雖モ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ以テ供託物ヲ引取ルコトヲ得然レトモ共同債務者及ヒ保證人ノ義務免除ヲモ動産質權及ヒ抵當權ノ消滅ヲモ又供託物ニ付キ債權者ノ債權者カ爲シタル差押故障ヲモ妨礙スルコトヲ得ス

(粟塚)本條承諾ノ文字ハ受諾トシ第二項債務者ノ請求ニ因リテ有効ト裁判セラレトアルチ債務者ノ請求ニテ既判力チ有スル判決ニ因リ有効ト宣告セラレトスヘシ可決ス(元尾崎)其供託ハ當然ナリトノ判決ヲ爲シタルチ云フカ(松岡)然リ(粟塚)第三項ハ又ハ裁判ノ確定ト爲リタルトアルチ又ハ廢罷ス可ラサル判決ノトシ義務免除ヲモトアルチ義務解除トシ差押故障トア

民再調二ノ二二

ルチ拂渡差留トスヘシ(北畠)廢罷ス可ラサル判決ト云フハ受諾チ得ス(粟塚)債權者ノ受諾アリ又ハ判決アリタル後ト雖トモトシテハ如何(委員長)判決ト云フハ何ノ判決タルヤ知ルヘカラス(南都)右ノ判決トスヘシ(松岡)有効ノ判決トシテハ如何(粟塚)右ノ受諾又ハ判決アリタル後ト雖トモトシテハ如何可決ス

第四款 代位ノ辨濟

第五百一條 代位チ以テ第三者ノ爲シタル辨濟ハ債權者ニ對シテ債務者ニ義務チ免カレシノ且其債權及ヒ之ニ附着セル擔保ト効力トヲ併セテ其第三者ニ移轉ス但場合ニ從ヒ第三者ノ有スル事務管理又ハ代理ノ訴權チ妨ケス  
代位ハ下ノ區別ニ從ヒ債權者若クハ債務者ヨリ之チ許與シ又ハ法律チ以テ之チ付與ス



（村田）代位ノ辨済ハ代位辨済ト云フヘキニアラスヤ（栗塚）  
單純辨済ハ單純ノ辨済トアリ（元尾崎）債務者ハ不知ノ間債權  
者ヲ異ニスルカ（栗塚）然リ

第五百二條 債權者ノ許與シタル代位ハ受取證書ニ之ヲ明記スルニ  
非サレハ有効ナラス但辨済ニ付キ第三者ノ利害ノ有無及ヒ辨済者  
ノ名義ノ誰タルヲ問ハス

（栗塚）本條ハ但以下ヲ但第三者カ辨済ニ付キ利害ノ關係ヲ有  
スルヤ否及ヒ自己ノ名又ハ債務者ノ名ニテ辨済スルヤ否ヲ區別  
スルコトヲ要セストシタシ可決ス

第五百三條 債務者ハ其債務ノ辨済ニ必要ナル金額又ハ有價物ヲ已  
レニ貸與シタル第三者ヲシテ債權者ノ承諾ナク其權利ニ代位セシ  
ムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ借用證書ニハ其金額又ハ有價物ノ用方ヲ記載シ受

取證書ニハ其出所ヲ記載ス

公正證書又ハ確定ノ日附アル證書ニ非サレハ他ノ第三者ニ對シテ  
右ノ行爲ノ證トスルコトヲ許サス

然レトモ借用ト辨済トノ間ニ不相當ナル長キ時間ノ經過シタルト  
キハ裁判所ハ代位ヲ不成立ト宣言スルコトヲ得

（栗塚）末項宣言トアルヲ宣告トシ第三項他ノ第三者トアルハ  
第一項ノ第三者ト異ニスル爲メ他ノト云フ字ヲ加ヘシヤ報告委  
員ニテ總テ第三者トセリ（元尾崎）他ノ第三者ト云フハ他人ト  
云フ義ナルヘシ（栗塚）然リ（委員長）確定ノ日附アル證書ニ  
非サレハト云フハ訴訟法ト對照スル等ニアラスヤ（松岡）別ニ  
日附登記ノ法ヲ要スルニ至ラン結局第三者トスヘキ修正ハ否決  
セララル

第五百四條 代位ハ左ノ者ノ利益ノ爲メ當然成立ス



第一 或ハ他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メ義務ヲ負擔シタルニ因リ或ハ先取特權又ハ抵當權ヲ負擔スル財産ノ第三所持人トシテ他人ノ爲メ義務ヲ負擔シタルニ因リ其義務ヲ辨済スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者

第二 或ハ抵當斷權ヲ豫防スル爲メ或ハ不動産ノ差押又ハ契約解除ノ請求ヲ止ムル爲メ他ノ債權者ニ辨済シタル債權者

第三 自己ノ財産ヲ以テ相續ハ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨済シタル享益相續人又ハ表見ニシテ善意ナル相續人

(粟飯) 第一項ハ一身ニ屬スル義務アルト又ハ第三所持者トシテ義務アルトヲ示シタルモノナレハ或ハ自身ニテ他人ト共ニ或ハ先取特權又ハ抵當權ヲ負擔スル財産ノ第三所持者トシテ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔シタルニ因リ其義務ヲ辨済スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者トシタシ又第三又ハ表見ニシテ善意ナル相續

人トアルヲ善意ナル表見相續人トシタシ可決ス

第五百五條 前三條ニ依リ代位シタル者ハ債權ノ効力又ハ擔保トシテ債權者ニ屬セシ總テノ對人及ヒ物上ノ權利及ヒ斷權ヲ行フコトヲ得但左ニ掲クル場合ヲ例外トス

第一 當事者カ代位者ニ移轉セシメシ權利及ヒ斷權ヲ制限シタルトキハ其制限ニ從フ

第二 第三所持人カ債務ヲ辨済シタルトキハ保證人ニ對シテ代位セス保證人カ債務ヲ辨済シ第千三十六條ノ規定ニ從ヘルトキハ第三所持人ニ對シテ代位ス

第三 一箇ノ債務ノ抵當ト爲リタル數箇ノ不動産カ各別ニ數箇ノ第三所持人ノ手ニ存スル場合ニ於テ其一人カ債務ヲ辨済シタルトキハ各不動産ノ價格ノ割合ニ應スルニ非サレハ他ノ第三所持人ニ對シテ代位ノ權ヲ行フコトヲ得ス



第四 互ニ擔保人タル共同債務者ノ一人カ債務ヲ辨済シタルトキハ辨済者ハ他ノ債務者カ分擔ス可キ債務ノ限度ニ應スルニ非サレハ其各自ニ對シテ代位スルコトヲ得ス

(栗塚)本條第一ハ移轉セシメシトアルヲ移轉シタルトシ又起案者ヨリ第二保證人カ以下ヲ第三トシ第三ヲ第四トシ元第四ヲ第五ト順次降下シタリ所持人トアルハ所持者トスヘシ又第三ハ保證人ハ債務ヲ辨済シ第千三十六條ノ規定ニ從ヒタルトキニ非サレハ第三所持者ニ對シテ代位セストシタシ歐文ハ全ク斯クノ如クナレハナリ第五ノ尾代位スルコトヲ得ストアルハ代位セストスヘシ可決ス

第五百六條 代位者ハ自己ノ支拂ヒタル金額ヲ超エテ債權者ノ訴權ヲ行フコトヲ得ス

無異議

第五百七條 代位ハ原債權者ヲ害セサルコトヲ要ス

數箇ノ債權ヲ有スル者ハ其一箇ニ係ル代位辨済カ他ノ債權ノ抵保ヲ減スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得

(元尾崎)本條ハ二人ノ債權者アルヲ想像セサルヘカラサルカ(南部)債權者モ抵當モ二個アリト想像セサルヘカラス

第五百八條 代位辨済カ債務ノ一分ノミニ係ルトキハ代位者ハ自己ノ辨済ノ割合ニ應シテ原債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

然レトモ原債權者ハ全部ノ辨済ヲ受ケサルトキハ獨リ契約ノ解除ヲ行フ但代位者ニ賠償スルコトヲ要ス

無異議

第五百九條 代位辨済ニ因リテ全部ノ辨済ヲ受ケタル債權者ハ債權ノ證書及ヒ質物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權者カ一分ノ辨済ノミヲ受ケタルトキハ要用ニ應シテ代位者ニ



證書ヲ出示シ且質物ノ監護チ之ニ許スコトヲ要ス

(元尾崎)質物ノ監護チ之ニ許スコトヲ要ストアルハ保存ニ注意スルコトヲ之ニ許スコトヲ要ストシテハ如何(北畠)保存ニ注意スルコトヲ之ニ許スコトヲ如何(栗塚)保存ニ注意スルコトヲ之ニ許スコトヲ如何可決ス

第五百十條 代位辨濟ノ有効、充當、提供及ヒ供託ニ付テハ前三款ニ規定ニ從フ

(委員長)要セラレタル條件ト云フヲ除去シテ可ナルヤ(栗塚)代位辨濟ノ有効ト云ヘハ代位辨濟ノ有効ニ付テノ條件ト云フカ如シ(委員長)代位辨濟ノ有効ト云ヘハ代位辨濟チ有効ナラシムルニハト云フ如シ(元尾崎)原案ニテ可ナリ可決ス

第二節 更改

第五百十一條 更改即チ新義務ヲ以テ舊義務ニ代フルコトハ左ノ四

箇ノ方法ニ因リテ成ル

第一 當事者カ義務ノ新目的ヲ以テ舊目的ニ代フル契約ヲ爲ストキ

第二 當事者カ義務ノ目的ヲ變セスシテ其名義ノミチ變スルノ契約ヲ爲ストキ

第三 新債務者カ舊債務者ニ替ハルトキ

第四 新債權者カ舊債權者ニ替ハルトキ  
(栗塚)本條ハ更改即チ新義務ヲ以テ舊義務ニ代フルコトハトアルチ更改即チ舊義務ノ新義務ニ變更スルコトハトシタシ第二ハ義務ノミトアル「ノ」チ刪ラレタシ可決ス

第五百十二條 當事者カ期限、條件又ハ抵保ノ加除ニ因リ又ハ履行ノ場所若クハ負擔物ノ數量、品質ノ變更ニ因リテ單ニ義務ノ體様ヲ變スルトキハ之チ更改ト爲サス

第一項  
削除建  
議



商證券ヲ以テスル債務ノ辨濟方ハ其券面ニ債務ノ原因ヲ指示シタルトキハ更改ヲ成サス

又債務ノ認定ハ其證書ニ執行式アルトキト雖モ亦同シ

(栗塚)本條第一項ハ之ヲ示シ置カサルモ分明ナリト云フニテ  
刪除ノ建議アリト雖トモ報告委員ヤ裁判官タル人等ハ現今代  
人ノ變無抵當ノ債權ニ抵當ヲ附シタルヲ以テ義務ノ更改トシ條  
件ノ變更ヲ以テ更改ト思惟スレハ之ヲ存置シタシト云フニアリ  
(松岡)存置スヘシ可決ス(栗塚)擔保ノ加除ト云フハ擔保ノ  
加減トスヘシ可決ス(栗塚)又債務ノト云フ「又」ヲ刪ルヘシ  
(松岡)前債務トスヘシ可決ス辨濟方ハトアル方ヲ刪リ認定ハ  
追認トス

第五百十三條 債權者ハ原債權及ヒ其抵保ヲ有債名義ニテ處分スル  
ノ能力ヲ有スルニ非サレハ更改ヲ承諾スルコトヲ得ス

民再調二ノ一七

留保

右規定ハ契約上、法律上又ハ裁判上ノ管理者及ヒ代理人ニ之ヲ適  
用ス但代理ノ總般ナラサルトキニ限ル

(栗塚)第二項但以下ハ再調査員ヨリ之ヲ刪除シテ其留保ヲ取  
消シタリ

第五百十四條 更改ノ意思ハ債權者ニ在リテハ推定ヨリ生セス明カ  
ニ證書又ハ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

然レトモ當事者ニ交替ナキ場合ニ於テ義務ノ更改アリタルヤ又ハ  
三箇ノ義務ノ兩存セルヤノ疑ヒ有ルトキハ第三百八十條ニ依リ債  
務者ノ利益ノ爲ノニ更改ノ意義ニ從フ

(栗塚)本條第一項ハ推定ヨリ生セストアルヲ之ヲ推定セスト  
シタシ可決ス(松岡)事情ヨリ生スルコトヲ要ストアルハ事情  
ヨリ現ハル、コトヲ要ストスヘシ可決ス(栗塚)第二項ハ再調  
査員ニテ債務者ヲ保護スルニ過タルヲ以テ之ヲ刪ルヘシト云フ

削除  
建議



ニアルモ第三百八十條第二項ニ於テ此規定ハ各項目ニ付キ各別ニ之ヲ適用ストアルヲ存在シタレハ本條第二項モ之ヲ存セサルヘカラス依テ之ヲ修正シテ然レトモ同一ノ當事者間ニ於テ義務ノ更改アリタルヤ又ハ二個ノ義務ノ共ニ存スルヤノ疑ヒ有ルトキハ第三百八十條ニ依リ債務者ノ利益ノ爲メニ更改ノ意義ニ解釋ストセリ可決ス

第五百十五條 舊義務カ停止又ハ解除ノ條件ニ從ヒシトキハ更改ハ同一ノ條件ニ從フモノトノ推定ヲ受ク

又新義務カ有條件ナルトキハ更改ハ停止條件ノ成就シ又ハ解除條件ノ成就セサルトキニ非サレハ成ラス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ單一ナル更改ヲ爲サント欲シタルノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

(果據) 本條第二項有條件トアルヲ條件附トシ第三項單一トア

第三項  
疑問

ルヲ單純トスヘシ(元尾崎) 第一項條件ニ從ヒシトキハトアル條件付ナリシトキハトスヘシ可決ス(元尾崎) 停止條件變シテ解除條件トナリシトキハ更改ニアラスヤ(果據) 義務ノ態様ハ變スルモ之ヲ更改トスルヲ得サルナリ

第五百十六條 舊義務カ初ヨリ法律上成立セス又ハ法律ノ定ムル原因ニ由リテ消滅シ若クハ取消サレタルトキハ更改ハ無効ニシテ新義務ハ成立セス

又新義務カ其成立及ヒ有効ニ要スル法律上ノ條件ヲ具備セサルトキハ舊義務ハ存立ス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ自然義務ヲ法定義務ニ又ハ法定義務ヲ自然義務ニ變換セント欲シタルノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

(果據) 本條第三項ハ自然義務ノ存廢ニ關スヘキヲ以テ之ヲ疑



問ニ附シタリ

第五百十七條 舊義務ヲ更改スル爲ノ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ有効ニ新義務ヲ約束シタル債務者ハ其了知セル舊義務ノ無効ノ理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

債務者カ次條ニ從ヒ舊債權者ノ囑託ニ因リ新債權者ニ對シテ義務ヲ約束シタルトキモ亦同シ

(果報) 無効ノ理由トアルヲ無効ノ方法トシ訴訟法ニ抗辯ノ方法トアル如キニ做ヘリ(松岡) 無効ノ理由ト云フニテ可ナリ(栗塚) 約束ハ諾約トスヘシ可決ス

第五百十八條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ或ハ舊債務者ヨリ新債務者ニ爲セル囑託ニ因リ或ハ舊債務者ノ承諾ナクシテ新債務者ノ同意ノ干涉ニ因リテ行ハル

囑託ニハ完全ノモノ有リ不完全ノモノ有リ

民事調二ノ一九

第三者ノ同意ノ干涉ハ下ニ記載スル如ク除約又ハ補約ヲ成ス

(栗塚) 本條第一項干涉トアルハ干與トシタシ訴訟法ニテハ之ヲ参加トシ行政上ニテハ干涉ト云フヘシ原案ニ付ス



質貸借

（栗塚）今村氏ノ起案ニ係ル質貸借ニ付キ報告委員ハ三種ノ疑問アリ其疑問ハ兼テ各委員ニ配付シ置キタレハ各員領承アルヘシ又今村氏ニ疑問ヲ爲シタルニ今村氏ハ第十三條「質借人ヨリ各式ニ告知ヲ受ケタル」及ヒ「其訴訟ニ参加シテ」ノ文字ヲ刪ルヘシトナリ又第二十三條ハ人權ナレハ轉貸スルヲ得ス物權ナレハ轉貸スルヲ得ト云フ區別ナカルヘシ凡ソ權利ハ轉貸シ又ハ讓渡スルヲ得ヘキモノトス若シ修正按ノ如ク讓渡又ハ轉貸ヲ許サ、ルヲ以テ人權ノ本則トス物權モ亦讓渡又轉貸ヲ許サ、ルヲ以テ本則ト爲サ、ルヲ得ス何トナレハ權利タルコトニ於テハ同一ナレハナリ然ルトキハ用益權其他ノ權利ノ規定ニ忽チ既觸チ生スヘシ又物權ニテ使用權住居權人權ニテ使用貸借ノ如キハ何レモ轉貸ヲ許サ、ルヲ以テ本則トス是レ性質上然ラシムルモノ



ニシテ其權利ノ人權タルト物權タルトニ因ルニアラス若シ修正  
案ノ如ク讓渡又ハ轉貸ヲ許サ、ルヲ以テ賃貸借權ノ本則ト爲ス  
トキハ賃貸借權モ亦使用權及ヒ使用賃借ト同シク之ヲ相續人ニ  
移轉セシムルコトヲ得サルヲ以テ本則ト爲サ、ル可ラス是レ果  
シテ當テ得タルモノナルカ今村氏ハ之ニ答ヘテ轉貸ヲ禁シタル  
人權ト物權トノ區別ヨリ出テタルニアラス人權トスルモ物權ト  
スルモ實際上其轉貸ヲ禁スルヲ可トスト云フニアリ又第三八報  
告委員ニテ修正案第二十二條ハ原按ニ聊カ修正ヲ加フルモ物權  
タルノ原質ヲ失ハスト認メタルモ今村氏ハ物權タルノ原質タル  
ト否ニ關セサルナリト云ヘリ(委員長)轉貸ヲ禁スルカ否及ヒ  
人權トスルカ物權トスルカノ二問題ニ歸スルヲ以テ第一ニ人權  
トスルカ物權トスルカヲ論決スルコトトスヘシ(磯部)今村氏  
ノ起案ニ係ル第二十二條ハ實際上抵觸ヲ醸スルモノトス賃借人

ハ土地ニ於ケル地上權ヲ有スヘシ果シテ地上權ヲ有スルモノト  
セハ其土地ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スルコトハ自由ナラ  
サルヘカラサルニ修正案ニ從ヘハ必要ノ場合ニアラサレハ之ヲ  
爲スコトヲ得サルカ如シ又之ヲ人權トスレハ賃貸人ハ土地ノ收  
益ニ必要ナル建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スルヲ得セシムル義  
務アリト云ヘハ賃借人ヲシテ自ラ收益ヲ得ルモ轉貸シテ其收益  
ヲ得ルモ賃貸人ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルヘシ(熊野)賃貸借ヲ  
人權トスルニ付テハ今村氏ノ起案ニシテ大体ノ點ニ於テハ不都  
合ナシ(南都)賃貸借ハ既ニ前會ニ於テモ種々ノ議論アリ本員  
ハ例底ボ氏ノ原案ニ從ヒ物權ト爲シ置キタシ(磯部)賃貸物ノ  
讓渡シ及ヒ轉貸スルヲ得スト云ヘハ抵當ノ權利モ自然消滅スル  
モノト云ハサルヘカラス何トナレハ抵當ハ義務者カ其義務ヲ履  
行スルヲ得サルトキハ之ヲ公賣ニ附スルノ結果ヲ生スヘキモノ



ナレハ譲渡又ハ轉貸ヲ爲スヘカラスト云ヘハ抵當權ヲモ之ヲ禁  
セサルヘカラス(委員長)修正案ニ對スル大体ハ異議ナキヤ(松岡)異議ナシ(委員長)轉貸抵當及ヒ占有スルコトヲモ得スト云フ結果ヲ見ルハ容易ナルコトニアラサレハ尙ホ再應種カニ起案者ニ質問シタシ(清岡)修正案ハ占有ヲモ禁スルノ精神ナルヤ(磯部)修正第十三條ハ占有ヲ禁スルノ精神ナルヘシ(尾崎)之ヲ人權トシタレハトテ占有ヲ禁スルモノニアラス(南部)之ヲ人權トスレハ占有權ヲ生セス(栗原)ボアソナード氏ニ質問スルトシ其質問ハ論決ニ先スヘキヤ後ニスヘキヤ(笑作)論決ニ先スヘキヤ便宜ナリトス(委員長)修正案ハ此儘ニ附シ置キ別ニボアソナード氏ニ質問スヘシ又之ヲ物權トスルモ人權トスルモ賃借物ノ轉貸ヲ得セシメサルヤ否ヲ決シタシ若シ慣習上轉貸ヲ得セシメサルト云フ論決ニ附着スレハボアソナード氏モ

之ヲ人權トスル爲メニ法理ヲ變セサルヘカラスト云ハサルヘシ(西)家作ノ賃借ノ如キ其習慣ハ人ヲ目的ニスルニアリト云フベカラス(元尾崎)家作ノ賃貸ノ如キハ皆人ヲ目的トスルモノナリ(南部)然ラス貸家ノ貼紙ヲ爲シタル以上ハ人ヲ目的トスルヲ得ス(尾崎)日本ノ賃借ハ皆人ヲ信シテ之ヲ貸付スルモノニシテ貸主貸付スルヲ欲セサル者ニ對シテハ決シテ貸付セサルナリ多數ヲ以テ轉貸ハ貸主ノ承諾ヲ經サレハ之ヲ得セシメサルコトニ決ス



第五百十九條 債權者カ明カニ舊債務者ヲ免除スルノ意思ヲ表セサルトキハ囑託ハ不完全ニシテ更改ハ行ハレヌ且債權者ハ新舊債務者ヲ連帶ニテ訴追スルコトヲ得

第三者ノ隨意干涉ノ場合ニ於テ債權者カ舊債務者ヲ免除シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ反セル場合ニ於テハ單一ノ補約成リテ債務ノ全部ニ付キ新舊債務者兩存ス然レトモ此債務者ハ連帶ノ義務ニ任セス

(果塚) 本條第一項新舊債務者トアルハ二人ノ債務者ト云フヘキ誤ナリ未タ新舊ト云フヲ得サル場合ナレハナリ(松岡) 新舊ノ文字ヲ不當トスレハ舊債務者ヲ免除スルト云フヲ得サルヘシ(清岡) 新舊債務者トシテ不可ナシ(果塚) 免除スルノ意思ヲ表セサルヲ以テ新舊ト云フヲ得ス(元尾崎) 新舊ト云フニ差支ナシ(南部) 既廢ニ屬セサレハ舊ト云フヲ得サルヘシ(北島)



原案ノ儘ニテ可ナリ（栗塚）第二項免除ト云フ字ハ免レタルト  
スヘシ（松岡）第一項ノ免除ヲモ免スルトスヘキヤ（栗塚）然  
リ釋放ト云フヘキチ免除ト改メタルニ依リ免除ハ釋放ノ意味ヲ  
避ケンカ爲メナリ（村田）除約ニ因ルト云フハ除約ニ因レルト  
シタシ（委員長）新舊債務者兩存スト云フハ妥當ナリヤ（栗塚）  
第二ノ債務者ヲ得トシタキモ新舊ノ二字ヲ採用セラレタルニ依  
リ此儘ニ存セリ（委員長）補約カ成就シタル場合ニ付キ第二ノ  
債務者ヲ得ヘキニアラスヤ（栗塚）債務ノ更改アラサレハ新舊  
ト云フヲ得ス（三島）新舊ト云フモ假調ト思惟スヘシ（栗塚）  
新舊ト云フ文字ハ更改ニアラサレハ之ヲ使用スルヲ得サルモノ  
ナルニ囑託ノ場合ニ新舊ノ文字ハ假調ナリト思惟セサルヘカラ  
サルハ甚タ困難ナリ故ニ第一第二ノ債務者トセサルヘカラス（  
清岡）新舊ハ假調ト視做シテ可ナリ第一第二ト云フモ第一ハ舊

ニシテ第二ハ新タルノ事實ニ違ハス（委員長）更改ノ成ラサル  
場合ハ第一第二ノ債務者ト云フヘキヤ（栗塚）然リ（委員長）  
其修正說ニ決シタシ結局舊債務者ヲ免スルトアルチ第一項ノ債  
務者ヲ免スルトシ且債權者ハ新舊債務者トアルチ第一第二ノ債  
務者トシ第二項ノ債權者カ舊債務者トアルハ原案ノ儘ニシ債務  
ノ全部ノ上ニ債權者ハノ文字ヲ加ヘ新舊債務者兩存ストアルチ  
第二ノ債務者ヲ得トス

第五百二十條 完全囑託及ヒ除約ノ場合ニ於テ新債務者カ債務ヲ辨  
濟スルコトヲ得サルトキハ債權者ハ囑託又ハ除約ノ當時ニ於テ新  
債務者ノ既ニ無資力タリシコトヲ知ラサルニ非サレハ舊債務者ニ  
對シテ擔保ノ求償權ヲ有セス但特別ノ契約ヲ以テ此擔保ヲ伸縮ス  
ルコトヲ得

（栗塚）本條ハ契約ヲ合意トスルノミ



第五百二十一條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ債務者ト新舊債權者トノ承諾アルニ非サレハ成ラス

(清岡)本條ノ新舊ト云フ字ハ第一第二ト云フヘキニアラスヤ  
(栗塚)本條ハ更改ノ場合ナレハ新舊ト云ハサルヘカラス

第五百二十二條 債權者カ第五百二十五條ニ定メタル如ク其債權ノ抵保ヲ留保シ或ル人ニ囑託シテ自己ノ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケシムルトキハ其受囑託人ハ債權ノ讓渡ニ關スル第三百六十七條ノ規定ニ從フニ非サレハ第三者ニ對シ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス  
(栗塚)本條ハ抵保トアルヲ例ニ依リ擔保トスヘシ且本條ハ留保トセシニ起案者其債權ノ擔保トアルヲ其債權ノ物上擔保ト改メタルニ依リ留保ヲ水解シタリ又報告委員ハ物上擔保ヲ留保シ或ル人ニ囑託シテトアルヲ物上擔保ヲ留保シ或ハ他人ヲ惠ム爲メ或ハ他人ニ對スル債務ヲ免ル、爲メ其人ニ囑託シテトシタシ

ト可決ス

第五百二十三條 債權者ト連帶債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ一人トノ間ニ爲シタル更改ハ他ノ債務者及ヒ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

然レトモ債權者カ右共同債務者及ヒ保證人ノ同意ヲ更改ノ條件ト爲シタル場合ニ於テ共同債務者及ヒ保證人ノ之ヲ拒ムトキハ更改ハ成立セス

連帶債權者ノ一人ト爲シタル更改ハ其債權者ノ持分ニ付テノミ債務者ヲシテ義務ヲ免カレシム  
性質ニ因ル不可分債務ノ債權者ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ全部ニ付テ訴訟ノ權利ヲ有ス但第四百六十六條ニ定メタル替償ノ負擔ニ任ス

(栗塚)本條第四項替償ノ負擔ニ任ストアルヲ價金ヲ負擔スト



シ第三項持分トアルチ部分トスヘシ可決ス

第五百二十四條 保證人ト爲シタル更改ハ反對ノ意思アル證據ナキトキハ保證ニ付テノミ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ケ主タル債務者ニモ他ノ保證人ニモ義務ヲ免カレシメス

無異議

第五百二十五條 舊債權ノ物上擔保ハ新債權ニ移ラス但債權者之ヲ留保シタルトキハ此限ニ在ラス

此留保ハ共同債務者、保證人又ハ第三所持人ノ手ニ存スル抵保財産ニモ之ヲ行フコトヲ得

此留保ニ付テハ更改ノ相手方ノ承諾ノミチ必要トス  
右ノ場合ニ於テ財産ハ舊債務ノ限度ヲ超エテ抵保ヲ負擔セス

(栗塚) 本條ハ抵保ヲ擔保トシ所持人ヲ所持者トスヘシ可決ス  
(元尾崎) 假令ハ甲者ノ債權ニ得タル擔保ヲ乙者ニ更改シタル

トキハ其擔保ヲ失スルヤ(栗塚) 然リ(南部) 更改ナルカ故ナリ(委員長) 擔保ヲ負擔セスト云フハ重語ナルニアラスヤ(松岡) 擔保ヲ任セストシテハ如何(南部) 擔保ヲ負ハストスヘシ(渡) 此儘ニシテ不可ナシ(清岡) 此儘ニテ可ナリ

第三節 契約上ノ免除

第五百二十六條 債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ契約上ノ免除ハ有價名義又ハ無價名義ニテ之ヲ爲スコトヲ得

有價名義ノ免除ハ事情ニ從ヒ代物辨濟、更改、和解又ハ解除ヲ成シ無價名義ノ免除ハ生贈ヲ成ス但此第二ノ場合ニ於テハ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス

協賛契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許與スル一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

(栗塚) 契約ハ合意トシ生贈ハ贈與トスヘシ可決ス(栗塚) 協



諸契約ト云フ字ハ妥當ナリトセサルモ商法ニ於テ既ニ設定ニ屬シタル文字ナルニ依リ此儘ニ措ケリ（松岡）第三節合意上ノ免除トアルハ第四百七十一條ノ題目ニハ免除トアルニアラスヤ（栗塚）該條ノ題目ニ免除トアルハ今村氏ヨリ合意上ノ免除ト爲シ來レリ其報告ヲ遺忘セリ依テ合意上ノ免除トスヘシ可決ス（元尾崎）本條第二項無價名義ノ免除ハ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セスト云ヘルハ如何（栗塚）無價名義ハ公式ノ特別規則ニ依ラサルヘカラサルモ無價名義ノ免除ノ場合ハ義務ノ免除ニ屬スルヲ以テ公式ノ特別規則ニ從フヲ要セストス（元尾崎）第一ノ場合ハ公式ノ特別規則ヲ要スルカ（栗塚）否テス但此第二ノ場合ニ於テハト云ヘルヲ然レトモトスヘシ可決ス

第五百二十七條 債務ノ免除ハ明示又ハ默示ヨリ成リ推定ヨリ成ラス但法律ニ特定シタル場合ハ此限ニ在ラス

民再訓二ノ二七

無異議

第五百二十八條 主タル債務者ノ債務ノ免除ハ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

連帶債務者ノ一人ノ債務ノ免除ハ他ノ債務者ヲシテ其義務ヲ免カレシム但債權者カ他ノ債務者ニ對シ其權利ヲ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ扣除スルコトヲ要ス

不可分債務者ノ一人ノ債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不可分債務ノ債權者カ他ノ債務者ニ對シ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ扣除シ殘餘ノ部分ニ付キ其權利ヲ行フ

（栗塚）本條第一項ハ主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免除ハ其保證人ヲ免ストシ第二項ハ連帶債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ



免除ハ他ノ債務者ヲ免ストシ第三項ハ一人ノ債務ハ一人ニ爲シタル債務トシタシ（松岡）「ニ爲シタル」ノ修正ハ可ナルモ其他ハ此儘ニシタシ（渡）然リ其議ニ決ス

第五百二十九條 保證人ノ一人ノ債務ノ免除ハ主タル債務者及ヒ他ノ保證人チシテ其債務チ免カレシム

（栗塚）保證人ノ一人ノ債務ノ免除ハ主タル債務者云々トアルチ保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者云々トスヘシ（元尾崎）保證人ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人チシテ其債務チ免カレシムヘキニアラス（栗塚）其保證チ免除スルニアラス主タル債務チ免除スルチ云フ（清岡）保證人ノ一人ニ主タル債務チ免除シタルニ於テハ他ノ義務者チモ免レシムト云フハ記載セサルモ當然ナリ（栗塚）無價名義ノ場合ハ然ルヘキモ有價名義ニシテ保證人ノ一人幾千金額チ還

民再調二ノ二八

付シタルトキモ同然ナルヘキチ顯ハスヘシ（元尾崎）本條ハ刪除シタシ結局報告委員ノ修正ニ可決ス

第五百三十條 債務ノ免除チ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除チ得ル爲ノ實際供與シタル數額ニ付テノモ他ノ共同債務者及ヒ共同保證人ニ對シテ求償權チ有ス

無異議

第五百三十一條 連帶債務者ノ一人ニ對シ單ニ其連帶チ免除シタルトキハ其一人チシテ他ノ債務者ノ部分チ免カレシム且他ノ債務者チシテ其一人ノ部分チ免カレシム

又契約上ノ不可分債務者ノ一人ニ對シ單ニ其不可分チ免除シタルトキモ亦同シ性質ニ因ル不可分債務ニ付テハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シ全部ノ要求チ爲スノ權利チ失ハス然レトモ免除チ受ケタル債務者ノ負擔ス可キ債額チ扣除スルコトヲ要ス



(栗塚)本條第二項然レトモ以下ハ起案者ヨリ改正シ來レリ  
然レトモ「チ刪リ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シテモ亦全部ヲ要  
求スルコトヲ得但他ノ債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ扣除スルコト  
ヲ要スト爲セリ報告委員ニテ第一項ハ共同債務者ノ一人ニ對シ  
單ニ連帶又ハ合意上ノ不可分ノ免除アリタルトキハ其一人ヲシ  
テ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ且他ノ債務者ヲシテ其一人ノ  
部分ヲ免レシムトシ第二項ハ「又合意上ノ不可分ヲ免除シタル  
トキモ亦同シ」トアルヲ刪リ性質ニ因ル不可分債務ノ免除ニ付  
テハ云々トセリ(松岡)性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ  
トスヘシ(栗塚)可ナリ(村田)起案者ノ改正ハ不可ナリ(元  
尾崎)紫色ノ原案モ亦起案者ノ改案モ同一結果ヲ得ヘシ(松岡)  
不可分ノミノ免除ヲ受ケタルモノニ又全部ヲ要求スルコトヲ得  
ト云フヲ得サルナリ(栗塚)不可分ノミノ免除ヲ得タルモ自己

民再調二ノ二九

ノ分頭部分ニ付テハ其責ナキニアラス(委員長)第二項ハ尙ホ  
報告委員ニテ調査ヲ盡スヘシ(栗塚)然カスヘシ

第五百三十二條 債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ一人ニ對シ單  
ニ連帶又ハ契約上ノ不可分ヲ免除シタリトノ推定ヲ受ク

第一 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ヨリ其  
債務ノ部分ナリト明白シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルト  
キ

第二 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ對シ  
其債務ノ部分ナリト稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ其一人  
請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲ス可キ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 債權者カ異議ヲ留メスシテ債務者ノ一人ヨリ十午年間引  
續キ其負擔ス可キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受ケタルトキ  
(栗塚)本條第三ハ報告委員ニテ債權者カ異議ヲ留メスシテ十



今年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可キ利息又ハ年金ノ部  
分ヲ受取りタルトキトシタシ可決ス

第五百三十三條 保證人ノ一人ノ保證ノミチ免除シタルトキハ主タ  
ル債務者ハ其債務ヲ免カレス他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル  
一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レトモ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲  
セル場合ニ於テ債權者カ第五百二十八條第二項ニ準依シ他ノ保證  
人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人チシテ其義  
務ヲ免カレシム

(栗塚)本條ハ保證人ノ一人ノ保證ノミチ云々トアルチ保證人  
ノ一人ニ保證ノミチ云々トスヘシ可決ス

第五百三十四條 債權者ノ動産質又ハ抵當ノ拋棄ハ其債權ヲ減セス  
然レトモ連帶債務者又ハ保證人ハ其拋棄ニ因リ此等ノ擔保ニ於ケ  
ル代位ヲ妨ケラレタルカ爲メ第千四十五條及ヒ第千七十三條ニ依

リ債權者ニ對シテ自己ノ義務免除ヲ請求スルコトヲ得

(栗塚)本條ハ第千四十五條及ヒ第千七十三條ニ記載アルト重  
複セルトチ以テ刪除建議アルモ本條ハ尋常ノ送り條ト同シカラ  
サレハ存在セシムヘシ(元尾崎)然ルヘシ

第五百三十五條 共同債務者ノ一人カ連帶若クハ不可分ノミノ免除  
ヲ得ル爲メ又ハ保證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出  
捐ヲ爲シタルモ其債務ヲ減セス且他ノ共同債務者又ハ共同保證人  
ニ對シテ求債權ヲ有セス

(元尾崎)本條ハ如何ナル意義ナリヤ(栗塚)連帶若クハ不可  
分ノミノ免除ヲ得ントシテ贈賂ヲ送ルモ金圓ヲ呈スルモ其責ヲ  
免カル、ヲ得スト云フ義ナリ(清岡)本條ハ佛蘭西民法千二百  
八十八條ノ旨意ニ倣ヒタシ(松岡)此ハ債務者ハ債權者ニ對シ  
連帶ヲ解除シ分帶ニ爲サシノンコトヲ請求スルニ付キ出捐スル



モ其出捐ハ負債元額ノ分當部分ヲ差引スルヲ得スト云フノ義ナ  
リ

第五百三十六條 (農場削除)

(栗塚)本條ハ農ニ削除ニ決シタルモ其削除脫ハ訴訟ヲ發生セ  
シムルニ過キスト云フニアリ特定物ヲ引渡シ又ハ返還ノ義務ヲ  
免除スルモ所有者ハ回收ノ權利ヲ失ハストスレハ弊害ナカルヘ  
シ凡ソ賣買ニハ人權物權ヲ併セテ移轉スルモノナレハ買者ハ引  
渡權ヲ釋放シタレハトテ物權ヲ回收スルノ權ヲ消滅スルモノニ  
アラス要スルニ人權ハ拋棄スルモ物權ハ存在スヘシト云フヲ顯  
ハスチ可トスト云フニアリ故ニ前會ニ於テ本條ヲ削除シタルモ  
右ノ如ク修正シテ之ヲ存在セシメリ(松岡)一旦削除シタルモ  
ノチ更ラニ存置スルノ必要ナシ(清岡)道理上明瞭ナリト雖モ  
世人ノ誤惑ヲ生スルノ恐レアリ(栗塚)横濱市場ニ於テハ生糸

類ノ賣買契約ヲ爲スモ即時其品類ヲ引取ルコトヲ得サルニ付キ  
倉敷料ヲ支拂ヒ之ヲ預置シ引渡ヲ免除スル如キ例少シトセス(一  
北島)賣買ニハ荷送契約ト庭放シ契約ト云フモノアルモ義務免  
除ト云フモノナシ(松岡)報告委員ノ呈議ハ採用スルニ足ラス  
其議ニ決ス

第五百三十七條 連帶債權者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ  
免除ハ其一人ノ部分ニ付テノミ他ノ債權者ニ對シ之ヲ以テ對抗ス  
ルコトヲ得

債務力性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ノ爲シタル免除  
ハ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス他ノ債權者ハ第四百六十六條及  
ヒ第五百二十八條ノ規定ニ從ヒ全債權ヲ行フ

(栗塚)本條第一項ハ連帶ノミノ免除ハトアルチ連帶ノトシ其  
一人ノ上ニ單ニト云フ二字ヲ加ヘ部分ニ付テノミトアルチ部分



ニ付トシ他ノ債權者ニ對シトアル「對シ」ノ二字ヲ刪リタシ可  
決ス

第五百三十八條 債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意  
ニテ債務者ニ交付シタルトキハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖  
モ債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク但債權者ノ反對  
ノ意思ヲ證明スル權利ヲ妨ケス

公正證書又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行式ヲ具備  
スルモ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所ハ事情ニ因リ  
其免除ヲ認定スルコトヲ妨ケス

債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反對ノ證據アルマテハ債權者  
ヨリ任意ノ交付アリタリトノ推定ヲ受ク

(栗塚)本條ハ證明スルトアルヲ證スルトシ認定トアルヲ考定  
トスヘシ(松岡)認定ハ可ナルニアラスヤ(栗塚)認定ト云フ

民再調二ノ三二

字ハ此等ノ場合ニ使用セス(松岡)此場合ハ認定トシ他ノ場合

ニテ別字ヲ使用シタシ(栗塚)然カスヘシ(松岡)訴訟法ニテ

ハ執行吏ハ受取ルヘキ物類ヲ受取ルトキハ判決書ヲ債務者ニ交

付スヘシトナルニ本條ニテハ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラ

ストアルハ如何(南部)訴訟法ハ判決書ニアラスシテ執行ノ命

令書ナリ(栗塚)執行命令書ト判決書トハ同シカラス又第五百

八十一條ニ認定ノ字アリ(南部)該條ノ認定ハ承認トスヘキカ

否ト云フ論題ハ如何(松岡)該條ハ承認トシタシ(松岡)公正

證書又ハ判決書ノ任意ノ交付ハ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足

ラスト云フテ正則トシ但事情ニ因リ其免除ヲ認定スルコトヲ妨

ケスト云ヒシハ之ヲ反對ニ但公正證書又ハ判決書ノ任意ノ交付

アルモ債務ノ免除ヲ妨ケスト云フ様ニシテハ如何(南部)此ノ

如ク指定シタルモ不都合ナシ(松岡)判決書執行命令書ノ如キ



訴訟法ニ關係アル文字ハ共ニ照査セラレタシ

第五百三十九條 債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名若クハ其他ノ緊要ナル部分ヲ有意ニ毀滅シ扯破シ又ハ抹銷シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリタリト推定ス  
右毀滅扯破又ハ抹銷ハ之ヲ爲シタル當時其證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アルマテ債權者ノ所爲又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク

無異議

第四百四十條 債務ノ免除ハ明示ト默示ト直接ノ證明ト法律上ノ推定ト之間ハス反對ノ證據アルマテ有價名義ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク

然レトモ互ニ授受スルノ能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有價名義ニテ之ヲ爲シタリトノ直接ノ證據ヲ舉クルコトヲ要ス

(栗塚)本條ハ第一項ヲ債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定スルト之間ハス反對ノ證據アルマテ有價名義ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受クトスヘシ可決ス

第四節 相殺

第五百四十一條 二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒ法律上、任意上又ハ裁判上ノ相殺カ成立ス  
相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其最寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム

(松岡)其最寡少ナルトアルヲ其寡少ナルトシタシ可決ス

第五百四十二條 二箇ノ債務カ主タルモノ明確ナルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ及ヒ要求スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思ヲ以テ其相殺ヲ禁セサルトキハ當事者ノ不知ノ間ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハル



(栗塚) 本條「明確ナルモノ」ヲ代替スルヲ得ヘキモノトシタ  
シ下條記載ノ順序斯ノ如クナレハナリ又不知ノ間ニトアルヲ不  
知ニトスヘシ可決ス

第五百四十三條 主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對  
シテ負擔スル債務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス然  
レトモ訴追ヲ受ケタル保證人ハ債權者カ主タル債務者又ハ自己ニ  
對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得  
連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債  
務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テノミ相殺ヲ以テ對抗スル  
コトヲ得然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗ス可キトキハ全  
部ニ付キ之ヲ申立ツルコトヲ得  
數人ノ連帶債權者アルトキ債務者ハ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ  
負擔スル債務ニ付テハ第七十八條ニ依リ債權者ニ辨濟ノ領受ヲ

民再議二ノ三四

強要スルコトヲ得ヘキ場合ニ在リテハ總債務ノ相殺ヲ以テ常ニ訴  
追者ニ對抗スルコトヲ得

債務カ債務者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ意思ニ因ル不可分ナルト  
キハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性  
質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百六十六條ノ規定ニ從フ

(栗塚) 本條第三項ハ負擔スルノ下債務ノ相殺ヲ以テ訴追者ニ  
對抗スルコトヲ得但第七十八條ニ依リ債權者ニ辨濟ノ領受ヲ  
強要スルコトヲ得ヘキ場合ニ限ルトシ第二項ハ部分ニ付テノミ  
トアルヲ部分ニ付テニ非サレハトシタシ可決ス

第五百四十四條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相場書  
アル日用品ノ定期ノ供與ヲ負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ  
負擔スル金錢ト相殺スルコトヲ得

(栗塚) 本條相場書アルト云フ「書」ヲ刪ルヘシ可決ス



第五百四十五條 債務ノ成立其目的ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ爭ハル、時ト雖モ之ヲ明確ナリトス

無異議

第五百四十六條 裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期間ハ相殺ノ妨チ爲サス債務者ノ請求ニ因リ無償ニテ債權者ノ許與シタル期間ニ付テモ亦同シ

二箇ノ債務ノ一カ解除條件ニ從フトキト雖モ相殺ハ行ハル但條件ノ成就シタルトキハ相殺ヲ解除ス

(要塚)本條第二項解除條件ニ從フトキト雖トモトアルハ前例ニ從ヒ解除條件付ナルトキト雖トモトセリ

第五百四十七條 二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ辨濟ス可キモノニ非サルトキト雖モ尙ホ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩

民再議二ノ三五

替賃ヲ計算スルコトヲ要ス

無異議

第五百四十八條 左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相殺ハ行ハレス

第一 債務ノ一カ不正ニ他人ノ財産ヲ押取シタルコトヲ以テ原因ト爲セルトキ

第二 變例ト稱スル寄託物ノ返還ニ關スルトキ

第三 債權ノ一カ不可押ナル有價物ヲ目的トスルトキ

第四 當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲メ達スルコトヲ得サルトキ

(要塚)本條第一ハ債務ノ一カ他人ノ財産ノ横領ヲ原因ト爲セルトキトセリ(元尾崎)不正ニト云フ字ハ翻ルヘキヤ(要塚)横領ト云ヘハ不正ヲ包含スヘシ詐欺盜取等ヲ指スモノナレハナ

留保



本條ハ第三  
百六十七條  
第二項ト重  
複ス之ヲ削  
除ス可シ

リ（清岡）横領ト云フ熟字ナシ（松岡）横領トセス不正ニトス  
ヘシ（三島）債務ノ一カ不正ノ押取ヲ原因ト爲ストキトシテハ  
如何（委員長）不正ノ押取ト云フニテ可ナルヤ（栗塚）不正ノ  
得取トシテハ如何（清岡）押取ト云フチ可トス（元尾崎）原案  
ノ儘ニシタシ結局債務ノ一カ不正ニ他人ノ財産ヲ押取シタルチ  
原因ト爲ストキトスルニ決ス（栗塚）第二ハ變例ト稱スルトア  
ルチ使用ヲ許セルトシ第三ノ不可押ナルトアルチ差押フルコト  
ヲ得サルトシタシ可決ス（委員長）第一ノ場合ハ尙ホ報告委員  
ニテ調査スヘシ

第五百四十九條 債權ノ讓受人カ其讓受チ債務者ニ告知シタルノミ  
ニテハ債務者ハ讓渡人ニ對シテ從來有セル法律上ノ相殺チ以テ讓  
受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハス  
債務者カ讓渡人ニ對シ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セス

民再調二ノ三六

讓渡チ承諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シ其權利ヲ申立ツル  
コトヲ得ス

右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺チ申立ツルコトヲ得サリシ金額  
又ハ有價物ヲ讓渡人チシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス  
（栗塚）本條ハ第三百六十七條第二項ト重複スルニ依リ刪除ス  
ヘシト云フ建議アルモ別ニ重複シタルニアラサレハ存在セシメ  
タシ（元尾崎）刪除スルニ及ハス可決ス

第五百五十條 拂方差止チ受ケタル債務者ハ差止人ノ債務者即チ自  
己ノ債權者ニ對シテ差止後ニ取得シタル債權ノ相殺チ以テ差止人  
ニ對抗スルコトヲ得ス  
又相殺ノ從來ノ原因ニ付テモ拂方差止チ受ケタル債務者ハ民事訴  
訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレ  
ハ之チ以テ差止人ニ對抗スルコトヲ得ス



右孰レノ場合ニ於テモ拂方差止ヲ受ケタル債務者ハ差止ノ金額又ハ有價物ニ付キ自己ノ債權ノ辨濟ヲ得ル爲メ差止人ト共ニ入班スルノ權利ヲ有ス

(栗塚)本條ハ拂方トアルヲ拂渡トシ差止トアルヲ差留トシ入班ヲ配當ニ加入ト修正スヘシ(渡)差止ヲ差留トスルハ應當トセス(南部)訴訟法ニテハ登記法ニ差留トアルニ因リテ差留トシタレハ差止ハ不可ナリ(栗塚)佛蘭西流義ヲ以テ云ヘハ差止トスヘキヲ受當トス(松岡)差留ト云フモ差支ナシ

第五百五十一條 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル債務者ハ其餘額ニ出テタルトキト雖モ不當利得ノ取戻訴權ノミヲ行フコトヲ得但次條ニ記載スル場合ハ此限ニ在ラス

(栗塚)債務ヲ辨濟シタル債務者トアルヲ債務ヲ辨濟シタル者トスヘシ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル場合ハ債務者ト云フ

ヲ得サレハナリ可決ス

第五百五十二條 前三條ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差止人ノ利益ノ爲メ認定シ又ハ自己ノ債權者ニ辨濟シタル者ハ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保證、先取特權若クハ抵當ヲ申立ツルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリシコトヲ證明スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ原債權ハ其資格ヲ以テ抵保ト共ニ複舊ス

(栗塚)本條ハ認定ヲ追認トシ差止人ヲ差留人トシ證明ヲ證トシ抵保ヲ擔保トスヘシ可決ス既ニ行ハレタルヲ既ニ得タルトシタシ(松岡)既ニ得タルト云フヲ可トス(栗塚)申立ヲ援用トシタシ(清岡)援用トスルハ不可ナリ(栗塚)先取特權ヲ申立ツルト云フヲ得サルニ依リ援用トシタシ可決ス

第五百五十三條 任意上ノ相殺ハ法律カ法律上ノ相殺ヲ許サ、ル爲



ノ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得  
利害ノ關係アル各人ノ承諾ヨリ成ル相殺ハ之ヲ契約上ノモノトス  
任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ効ヲ有セス

（委員長）本條ノ契約上トアルヲモ合意上トスヘキヤ（栗塚）  
然リ（松岡）契約上ヲ悉ク合意上トセシハ不可ナリ（栗塚）日  
本ニテハ合意ト契約トハ差異ナキモノトシ物權ニ就テモ合意又  
ハ契約ト云ヒ得ルモノトセサルヲ得ヌ又承諾ヨリ成ルトアルハ  
敗字ニテハ承諾アルトキハトアリ（松岡）任意上ノ相殺ト合意  
上ノモノトノ二種アルカ如シ（栗塚）利害ノ關係ト云フ前ニ總  
テノ場合ニ於テト云フ字ヲ附シ附項ト合併シ承諾アルヨリ成ル  
トアルハ承諾アルトキトスルニ決ス

第五百五十四條 裁判上ノ相殺ハ被告カ原告ニ對シ自己ノ利益ノ爲  
ノ債權ヲ認定セシノ又ハ清算セシムルヲ主旨トスル反訴ノ方法ニ

民再調二ノ三八

依リテ之ヲ得

裁判所ハ場合ニ從ヒ或ハ主タル訴ヲ裁判シ或ハ相殺ヲ行ヒ二箇ノ  
訴ヲ併セテ裁判スルコトヲ得

裁判上ノ相殺ハ之ヲ以テ對抗シタル目ニ遡リテ効ヲ有ス

（栗塚）本條第一項ハ認定トアルヲ追認トシ第二項ハ此場合ニ  
於テト云ヘルヲ冒頭ニ加ヘ裁判所ハノ下一場合ニ從ヒ「テ」刪リ  
又「相殺ヲ行ヒ」ヲモ刪リタシ可決ス（村田）二箇ノ訴ヲ併セ  
テト云ヒ得ルヤ（栗塚）主訴ト併訴トヲ指スモノナレハ差支ナ  
シ

第五百五十五條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ法律上又ハ裁判上  
ノ相殺ニ服ス可キ數箇ノ債務ヲ有スルトキハ其債務ヲ相殺スルノ  
順序ハ第四百九十三條ニ掲ケタル辨濟ノ法律上ノ充當ノ規定ニ從  
フ



任意上又ハ契約上ノ相殺ノ充當ハ第四百九十一條及ヒ第四百九十二條ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

(栗塚)本條第一項相殺ニ服ス可キトアルハ相殺ニ服セルトシタシ(清岡)服ス可キトスヘシ(南部)法律上ノ相殺ナルヲ以テ服ス可キト云フニアラス服セルノ意ナリ(村田)服スルトスヘシ可決ス

#### 第五節 混同

第五百五十六條 一箇ノ義務ノ債權者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相續其他ノ名義ニテ一人ニ併合シタルトキハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス

右ノ混同カ從來ノ適法ノ原因ニ由リ解除、銷除又ハ廢絶ヲ受ケタルトキハ義務ハ之ヲ消滅セサリシモノト看做ス

(渡)適法ノ文字ハ妥當ナリヤ(南部)最初ヨリ適法ノ文字ア

リ(清岡)義務ハ之ヲ消滅セサリシトアル「之ヲ」ヲ刪除シテハ如何(三島)義務ハト云ヘハ之ヲト承クルヲ文法トス(南部)第五百五十三條相殺ハ之ヲトアル「之ヲ」刪レハ本條ノ「之ヲ」モ刪リテ可ナリ

第五百五十七條 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續シタルトキハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テノミ消滅ス

混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行ハレタルトキモ亦其混同ハ債務ノ一分ニ付テノミ成ル

(委員長)本條第二項ハ債務者トアルモ單稱ナルカ複稱ナルカ明了ナラス(南部)債務者一個ノ場合ヲ云ヒシナラン(委員長)一個ノ債務ハ債務ノ一分ト云フヲ得サルヘシ(栗塚)連帶ハ一個ノ債務ト看ルヘシ



第五百五十八條 義務力性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ト  
債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他ノ者ニ關シ其義務ヲ全存セシム然レ  
トモ其混同ヲ得タル者ハ第四百六十六條ニ從ヒ一分ノ替價ヲ供シ  
又ハ受クルニアラサレハ全部ニ付キ訴追シ又ハ訴追セラル、コトヲ得ス  
（果塚）替價ハ價金トナリ受取ルトナルヘシ  
（南部）訴追シ又ハ訴追セラル、コトヲ得ストアル訴追セラル  
、コトヲ得スト云フハ不可ナリト云フニテ修正シタルニ付キ訴  
追スルコトヲ得ス又ハ訴追セラル、コト無シトスヘシ可決ス  
第五百五十九條 一人カ二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ連帶債務者ノ  
分限ヲ併合シタルトキハ權利又ハ義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合  
ノ成リタル者ハ債權者ノ利益ニ從ヒ或ハ自己ノ名ヲ以テ或ハ己レ  
カ相續シタル者ノ名及ヒ權利ヲ以テ全部ニ付キ訴追シ又ハ訴追セ  
ラル、コトヲ得

働方又ハ受方ニテ不可分ナル義務ニ付テモ亦同シ  
（果塚）本條ハ冒頭一人カト云フ字ヲ刪リ分限ヲ併合シタルト  
キハトアルヲ分限カ一人ニ併合シタルトキハトシ自己ノ名ヲ以  
テトアルヲ自己ノ名トシ相續シタル者ノ名及ヒ權利ヲ以テトア  
ルヲ相續シタル者ノ名ニテトスヘシ可決ス（南部）訴追シ又ハ  
訴追セラル、コトヲ得ト云フハ前修正ニ倣ハサルヘカラス（果  
塚）訴追シト云フニテ可ナルニアラスヤ（果塚）債權者ノ利益  
ニ從ヒト云フヲ刪リ訴追シハ訴追スルコトヲ得トシ又ハ訴追セ  
ラル、コトヲ得トアルハ訴追セラル、コトアリトスヘシ（清岡）  
債權者ノ利益ニ從ヒト云フヲ刪ルハ如何（果塚）債務者ノ訴追  
セラル、コトアリト云フ裏面ヲ示サ、ルニ付キ表面ノ債權者ノ  
利益ニ從ヒトアルヲ刪ルヘシ可決ス

第五百六十條 保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續



シタルトキハ保證ハ其附隨ノ權利ト共ニ消滅ス

債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者ニ相續シタルトキハ  
債權者ハ主タル債務者共同保證人若クハ保證人ノ擔保人ニ對シ及  
ヒ保證ニ附着シタル動産質若クハ抵當ニ付キ其權利ニ變更ヲ受ク  
ルコト無シ

(粟塚) 本條第一項附隨ノ權利トアルハ附從ノトスヘシ可決ス  
第六節 履行ノ不能

第五百六十一條 義務カ特定物ノ引渡ヲ目的トシタル場合ニ於テ其  
目的物カ債務者ノ過失ナリ且遲滞ニ在ル前ニ滅失シ紛失シ又ハ不  
融通物ト爲リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ス若シ  
義務カ數箇ノ特定物中ノ若干ヲ目的トシタル場合ニ於テ其一箇ノ  
引渡モ不能ト爲リタルトキハ亦同シ  
作爲又ハ不作爲ノ義務ハ其履行カ右ト同シ條件ヲ以テ不能ト爲リ

タルトキハ消滅ス

(粟塚) 本條其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ストアルヲ其義務  
ハ消滅ストシタシ(清岡) 履行ノ不能ニ因リト云フハ存在セ  
シムヘシ消滅スト云フハ消滅ノ原由ヲ示シタルモノナレハナリ  
(南部) 滅失シ又ハ不融通物トナリタルトキハ固ヨリ義務ノ消  
滅スルモノタレハナリ(村田) 消滅ト云ヘハ履行ノ不能ニ因リ  
ト云フヲ包含ス(松岡) 不融通物ト爲リテ履行シ能ハサルトキ  
ハ消滅ストスヘシ(渡) 原案ヲ可トス(元尾崎) 然リ(粟塚)  
特定物中ノトアルハ定マリタル物ノ中ノトスヘシ此點全ク誤寫  
ナリ(元尾崎) 其一箇ノ引渡モト云フハ全部ノ引渡ヲトシテハ  
如何(粟塚) 之ヲ平首スレハ何レヲモト云フニアリ(委員長)  
原案ノ儘ニテ不可ナシ

第五百六十二條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因ル損失ヲ擔



末項ヲ本  
文ノ如ク  
修正シテ  
第四百四  
條第二項  
ニ加フル  
ノ建議

任シ若クハ第三百五十六條及ヒ第四百四條ニ從ヒテ遲滞ニ在ルト  
キハ其債務者ハ前條ノ原因アルモ其義務ハ消滅セス  
犯罪ニ因リ他人ニ屬スル金錢其他ノ有價物ヲ返還スルノ責ニ任ス  
ル者モ亦之ニ準ス

(栗塚)損失ヲ擔任シト云フハ危害ヲ擔任シトスヘシ(松岡)  
危害トセス危険トスヘシ(委員長)危険及ヒ災害ト云フ意味ニ  
アラスヤ(栗塚)危険及ヒ災害ノ意味ヲ兼ネ危害トシタリ(村  
田)危険及ヒ災害トスヘシ可決ス(栗塚)前條ノ原因アルモ其  
義務ハ消滅セストアルチ前條ノ原因ニ由リ其義務ヲ免レストス  
ヘシ(清岡)前條ノ原因ニ由ルモ其義務ヲ免レストスヘシ可決  
ス(横村)同第二項ハ削除セルカ(栗塚)第四百四條第二項ニ  
加ヘタレハナリ(委員長)可ナリ

第五百六十三條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外ノ事又ハ不可抗ノ力

民再調二ノ四二

ヲ證明スルノ責ニ任ス

債務者カ第三百五十五條第二項ニ依リ其義務ヲ免カル爲ノ其物カ  
債權者ノ方ニ在リト雖モ亦滅失ス可キコトヲ申立ツルトキハ其證  
據ヲ舉クルコトヲ要ス

(清岡)債權者ノ方ニ在リト雖トモト云フハ當レルヤ(三島)  
妥當ナリ(渡)本條ハ前會ニ起案者へ質問ノ答トナレリ如何(栗塚)  
起案者ハ第三百五十五條第二項ヲ改正シ來レリ(委員長)  
第三百五十五條第二項ハ一讀會ノ際改正セサリニアラスヤ(栗塚)  
改正ノ報告ヲ怠レルニ依リ早速反譯シテ呈出スヘシ

第五百六十四條 債務者カ履行ノ不能ニ因リテ義務ヲ免カレタルト  
キハ其債務者ハ己レノ受ク可キ對價ニ付テハ其履行ノ爲ノ既ニ出  
捐シタル限度ニ於テノミ權利ヲ有ス

(栗塚)受ク可キハ受取ルトスヘシ可決ス



第五百六十五條 物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ債務者カ其滅失ノ爲メ第三者ニ對シ或ル報復訴權ヲ有スルトキハ債權者ハ殘餘ノ物ヲ要求シ且右ノ訴權ヲ行フコトヲ得

(果塚) 本條ハ起案者ヨリ「債務者カ」ノ四字ヲ刪リ來レリ報告委員ニテ其滅失ノ爲メトアルヲ其滅失ヨリトシ報復訴權ヲ有スルトアルヲ報復訴權ノ生スルトスヘシ(渡) 報復訴權ト云フハ元ト補償訴權トアリシニ之ヲ報復訴權トシタルハ如何(三島) 今村氏ハ仇討ト云フ意味ナリト云ヘハナリ(果塚) 原狀ニ復スルト云フ意ニシテ名譽回復ト云フモ之ニ當ルヘシ(清岡) 補償訴權トスヘシ(松岡) 補償ト云ヘハ商法ニ補償ノ文字アルヲ以テ其例ニ倣ヘリ<sup>又</sup>第三百三十三條報復ノ文字モ補償ト修正ス

第七節 銷除

第五百六十六條 能力ナキ人錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ他

ノ一方ノ強暴若クハ詭譎ニ因リテ承諾ニ獲ラレタル人ノ約束シタル義務ハ五十年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對スル排斥ニ因リ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得

右ノ期間ハ欠損ニ付テノ銷除訴權ヲ行フ爲メ又ハ欠損ノ排斥ヲ申立ツル爲メ之ヲ成年者ニ許ス但法律カ此訴權又ハ排斥ニ付キ特ニ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

(果塚) 本條ハ第一項ヲ修正シ無能力者又ハ錯誤強暴若クハ詭譎ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人ノ約束シタル義務ハ五十年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ申立タル無効ノ抗辯ニ因リ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得トシタリ(委員長) 報告委員ノ修正ハ不明ナリ(果塚) 錯誤強暴詭譎ニ因リテトシタルヲ更ラニ錯誤ニ因リ若クハ他ノ一方ノ強暴詭譎ニ因リトシテハ如何(元尾崎) 他ノ一方ノ強暴ト云フハ



不可ナリ（南部）第三者ノ強暴トシテ可ナリ（松岡）強暴ノ文字ハ更ラニ他ニ妥當ノ文字ヲ撰ムヘシ（三島）然カスヘシ（清岡）無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴詭譎ニ因リテ承諾ヲ獲ラレタル人云々トシタシ可決ス（三島）強暴ノ字ハ暴威トシテハ如何ト云フニ実作委員ハ暴力トスルモ暴威トスルモ差支ナカルヘシト云フニアリ（尾崎）強暴ノ字ヲ可トス委員長強暴ト云フ字ニ天災ヲモ包含スルトセハ強暴ニテモ可ナルヘシ（元尾崎）天災ハ強暴ニ包含スヘシ強風暴雨ト云フ詭譎モアレハナリ（松岡）水害ノ難ヲ受ケタルモノヲ強暴ト云フコトナシ

第五百六十七條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詭譎ニ付テハ其詭譎ヲ發見スルマテ無能力ニ付テハ其能力ノ止ムマテ之ヲ停止ス

民再調二ノ四四

然レトモ瘋癲者又ハ喪神ニ因ル禁治産者ノ契約ニ付テハ此時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後其承諾シタル契約ノ要旨ノ通知ヲ受ケ又ハ其契約ヲ了知シタル時ヨリ經過ヲ始ム

法律上治産ヲ禁セラレタル處刑ニ付テハ銷除ノ訴權及ヒ排斥ハ自他ノ爲ノ其刑期滿了後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

成年者ノ欠損ノ場合ニ於テハ時効ハ契約ノ時ヨリ經過ヲ始ム

此他免責時効ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ關スル規定ハ此時効ニ之ヲ適用ス

（栗塚）本條第一項禁治産者ノ契約トアルハ契約ハ合意トシ契約ノ要旨契約ヲ了知シタルノ契約ハ共ニ行爲トシ第三項契約ハ合意トスヘシ可決ス（南部）喪神ハ喪心トスヘシ（栗塚）喪神ノ熟字アリ精神ヲ喪フノ意ナレハナリ（松岡）喪心ノ熟字ハ古昔ヨリ傳變シ來レリ



第五百六十八條 銷除訴權ヲ有セル人カ前條ノ期間ノ滿了前ニ死亡シタルトキハ訴權ハ其相續人ニ移轉ス

右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ對シ末タ經過チ始メサリシトキハ相續人ノ訴權ハ其相續權ノ發開ノ時ヨリ時効ニ罹リ既ニ經過チ始メタルトキハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル

無異議

第五百六十九條 未成年者又ハ禁治產者ノ財產ニ關シ後見人ノ爲シタル契約及ヒ行爲ハ無能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セサリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得

未成年者ノ行爲ニ付テハ之ニ要スル方式ナキトキ浪費者ノ行爲ニ付テハ裁判上ノ輔佐人ノ輔佐ナキトキ及ヒ禁治產者ノ行爲ニ付テハ何等ノ場合ヲ問ハス又其行爲ヲ銷除スルコトヲ得

右規定ハ此他ノ原因ニ由リ有能力者ノ爲メニ許與セル銷除ノ訴權

民再調二ノ四五

ヲ妨ケス

(栗塚)前會ニハ輔佐人ノ輔佐ナキトキトアルヲ輔佐人ノ輔働ナキトキトシテハ如何ト云フヲ呈出シタルモ此儘ニ通過シタリ

第五百七十條 未成年者一人ニテ特別ナル方式又ハ條件ノ必要ナキ契約又ハ行爲ヲ承諾シタルトキハ銷除訴權ハ其未成年者ノ爲メ金錢ヲ以テ見積ルコトヲ得ヘキ欠損アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス

法律カ保管人ノ輔佐ノミヲ要シタルトキ其輔佐ナクシテ既脱後見ノ未成年者ノ爲シタル右ト同一ナル性質ノ行爲ハ欠損ニ因ルニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

欠損ハ行爲ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

(栗塚)本條第一項「金錢ヲ以テ見積ルコトヲ得ヘキ」ヲ刪リ



タシ（松岡）然ルヘシ可決ス（栗塚）第二項性質ノ行爲ハト云  
ヘルハ性質ノ行爲モ亦トスヘシ可決ス

第五百七十一條 未成年者カ成年タリトノ陳述ノミニテハ其無能力  
又ハ欠損ニ因ル訴權ヲ妨クス但其成年タルコトヲ信セシムル爲ノ  
詐術ヲ用キタルトキハ此限ニ在ラス

此他ノ無能力者ノ虛偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ

（栗塚）本條ハ未成年者カトアルチ未成年者ノ爲シタルトスヘ  
シ（元尾崎）未成年者カ成年ナリト陳述シタルノミニテハトス  
ヘシ可決ス（栗塚）欠損ニ因ルトアルチ欠損ヲ原因トシテ返還  
ヲ求ムルモノトスヘシ  
（元尾崎）欠損ニ因ルトシテハ如何（栗塚）欠損ニ因ル錯誤訴  
權トスヘシ可決ス

第五百七十二條 商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得タル既脱後見ノ未

此條第二  
項ヲ削除  
シタルハ  
何ノ理由  
ナルヤ

成年者ハ其營業ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス

（栗塚）本條ハ前會ニテ商法第十二條ト既脱スルト云フニテ刪  
除スヘシト爲リタルモ商法ニハ差支ナキニヨリ存在セシノタリ  
第五百七十三條 婦ノ行爲及ヒ義務ハ配偶者ノ相互ノ權利及ヒ本分  
ニ關シ本法ニ定ノタル場合ニ非サレハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之  
ヲ銷除スルコトヲ得ス

無異議

第五百七十四條 承諾ノ瑕疵又ハ欠損ニ因リ行爲ノ銷除ヲ得タル成  
年者ハ其行爲ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スルノ責ニ  
任ス

無能力者ハ銷除ヲ得タル行爲ニ因リテ仍ホ現ニ己レヲ利スル物ノ  
ミチ返還スルノ責ニ認ス  
右返還ヲ要求スル訴權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス



此條ハ  
全ク無  
用ナリ

(委員長) 行爲ニ因リト云フハ行爲及ヒ義務トスヘキニアラス  
ヤ(栗塚) 行爲ニハ義務ヲモ包含セリ(委員長) 前條ノ「及ヒ  
義務」ト云フハ如何(村田) 前條ノ「及ヒ義務」トアルヲ刪リ  
ヘシ(南部) 前條ノ「及ヒ義務」ハ存在スヘシ(松岡) 本條ト  
義務ヲ記セサルヤ(元尾崎) 義務ヲ記セサルモ可ナリ(委員長)  
行爲ト云フハ義務ヲ包含スト云ヘハ行爲ノミトスルカ又ハ行爲  
及ヒ義務トスルカ何レカ一定シタシ(栗塚) 前條ヲ婦ノ行爲ハ  
トスヘシ可決ス

第五百七十五條 不動産ノ讓渡カ無能力備限強暴又ハ欠損ノ瑕疵ニ  
因ル銷除ニ服スルトキハ第三百七十二條及ヒ第三百七十三條ノ區  
別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得  
(栗塚) 本條ノ事項ハ第三百七十二條及ヒ第三百七十三條ニ明  
記アリト雖トモ右ハ登記ニ關スルヲ主トシタルモノニ付キ本條

民再編二ノ四七

ト同一ナリト云フヲ得ス(松岡) 該條ハ手續ヲ示シ本條ハ權利  
ヲ示シタルモノナレハ存置スヘシ可決ス

第五百七十六條 欠損ニ因ル銷除ノ訴ノ被告ハ事實ノ判決カ確定セ  
サル間ハ正當ト認ノラレタル欠損ノ全部ノ替價ト裁判費用トヲ原  
告ニ提供シテ其訴ノ効力ヲ止ムルコトヲ得

(栗塚) 正當ト認ノラレタルヲ證明セラレタルトスヘシ可決ス  
第五百七十七條 利害ノ關係アル當事者カ時効ノ開進ニ關シ第五百  
六十七條ニ定メタル時期ノ後銷除ノ原因アル契約ヲ明示又ハ默示  
ニテ認諾シタルトキハ其銷除ノ訴權ヲ行フコトヲ得ス

(栗塚) 本條ハ報告委員ニテ銷除訴權ハ第五百六十六條乃至第  
五百六十八條ニ定メタル時効ニ因リ消滅ノ外第五百六十七條ニ  
從ヒ時効ノ開始スルノ後利害關係アル當事者カ銷除スルコトヲ  
得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキハ之ヲ行フコト



ヲ得ストセリ可決ス

第五百七十八條 明示ノ認諾ハ契約ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル證書ニ因リテ成ル  
銷除ノ數個ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ時ニ證書ニ記シタル原因ノミチ除去ス  
成年者ノ利益ノ爲メ欠損ニ因ル銷除ニ服スル行爲ハ明示ヲ以テシ且原契約ノ後ニ於テスルニ非サレハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス  
（栗塚）本條ハ第一項契約ヲ合意トスヘシ（兩部）合意ノ上ハ銷除スルコトヲ得ヘキノ文字ヲ加ヘタシ可決ス第三項ハ成年者ノ利益ノ爲メ欠損ニ因リ銷除スルコトヲ得ヘキ行爲ノ認諾ハ明示ヲ以テシ且其行爲ノ後ニ於テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ストスヘシ可決ス

第五百七十九條 默示ノ認諾ハ左ノ行爲ニ因リテ成ル

民再調二ノ四八

第一 契約ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行

第二 異議ヲ爲サス又ハ異議ヲ留メサル強制ノ執行

第三 更改

第四 物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與

債權者ニ在リテハ默示ノ認諾ハ裁判上ノ履行請求及ヒ銷除ニ服スル契約ヲ以テ取得シタル物ノ全部又ハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル  
此他ノ默示ノ認諾ハ之ヲ裁判所ノ審判ニ委ス

（栗塚）審判ノ文字ハ審定トスヘシ債權者ニ在リテハ默示ノ認諾云々トアルヲ默示ノ認諾ハ債權者ニ在テハ履行ノ請求及ヒ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部又ハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ルトシタシ可決ス

第五百八十條 認諾ハ銷除訴權ヲ有スル者ノ特定ノ承接人ノ權利ヲ



害スルコトヲ得ス

(元尾崎) 特定ノ承接人ト云フハ如何(栗塚) 買者即チ一般ノ相續人ニアラサル者ノ如キチ云フ

第五百八十一條 根源ヨリ無効ナル行爲ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但方式上無効ナル生贈又ハ遺言ノ相續人ノ認定ニ關シ下ノ附録ニ掲ケタル規定ヲ妨ケス

(南部) 認定ヲ承認トスヘシ(元尾崎) 根源ヨリ無効ナル行爲ト云フハ如何(南部) 不法ノ行爲ヲ云フ(村田) 賭博ノ類ヲ指スナラン(南部) 「附録」ノ三字ヲ刪ルヘシ可決ス

第五百八十二條 算數、氏名、日附又ハ場所又錯誤ノ改正ヲ目的トスル訴權ハ時効ニ罹ルコト無シ但右ニ關係スル權利ノ時効ヲ妨ケス

(栗塚) 右ニ關係スル權利トアルチ右訴權ノ附屬スル主タル權

留保

留保

此一節  
留保

利トスヘシ(元尾崎) 主タル債權ハ時効ニ繋リ算數氏名日附ノ如キハ時効ニ繋ラスト云フハ事理不明ト云フヘシ(栗塚) 原則ヲ示シタルモノナリ主タル訴權カ時効ヲ得タル後ト雖トモ算數ノ如キハ其更正ヲ求ムヘカラサルニアラサルモ其更正ヲ求ムトモ別ニ利益ナカルヘシ

第八節 廢罷及ヒ解除

第五百八十三條 債權者ノ許害ニ因リテ約束シタル義務ノ廢罷及ヒ廢罷訴權ノ時効ハ第三百六十條乃至第三百六十四條ノ規定ニ從フ生贈者及ヒ其相續人ノ利益ノ爲メ設ケタル特別ノ廢罷ハ生贈ノ章ニ掲ケタル規定ニ從フ

(栗塚) 許害ニ因リテトアルチ許害ニ於テトスヘシ(北畠) 許害ニ於テト云フハ妥當ナラス(元尾崎) 許害スル爲メト云フ義ナルヘシ(村田) 許害スルノ意アリトシテハ如何(栗塚) 許害



スルニ意ナキ場合存スヘシ（北島）詐害ニ於テト云フハ如何ナル義カ（栗塚）假令ハ乙者ハ甲者ノ債務者ナリ乙者ハ未タ其義務ヲ了セサルニ更ラニ丙者へ贈與スル如キチ云フ（清岡）詐害シテトスヘシ可決ス

第五百八十四條 義務ハ第四百二十九條第四百四十一條及ヒ第四百四十二條ニ從ヒ契約上又ハ裁判上ノ解除ニ因リテ消滅ス  
解除ノ訴權ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

（栗塚）本條第一項契約上又ハ裁判上ノ解除ニ因リテトアルハ前案ノ如ク明示シテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテトシタシ可決ス（栗塚）第二項ハ前案ノ意ニ從ヒ冒頭ヲ裁判上請求スヘキ解除訴權ハトシタシ（清岡）第二項ハ裁判上ノ解除訴權トシテハ如何（栗塚）請求ト云フ字ヲ存シタシ結局款

民再調二ノ五〇

判上請求スヘキ解除訴權ハトスルニ可決ス

第四百七十一條

（栗塚）義務ノ消滅ハ八種ノ事項ニ依リ消滅スルモノナルモ尙ホ其他ニ免責時効ヲ以テ義務消滅ノ元因ト爲ルヲ示シタリ報告委員ハ更ラニ之ヲ修正シ其他義務ハ免責ト稱スル時効ノ條件カ第五編第二部ニ從ヒ具備スルトキハ之ヲ消滅シタルモノト看做ストシタリ可決ス



日本學術振興會

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

第三編 財産ノ取得方法

總則

第六百一條 物上及ヒ對人ノ權利ハ前編ニ規定シタル原因ニ由ルノ  
外尙ホ本編ニ規定スル特定名義又ハ包括名義ニ依リテ之ヲ取得ス  
ルコトヲ得

包括名義ニテ取得スル者ハ其前主ノ總テノ權利及ヒ義務ヲ相續ス  
但法律ニ規定シタル例外ヲ妨ケス

(粟塚) 第三編財産ノ取得方法トアルヲ財産取得編トシタシ書  
テ其議定アルヲ以テナリ(村田) 其議定アルヲ知ラス(粟塚)  
本法ハ各別ニ頒布スヘキナレハ毎編ヲ別ニシ且ツ毎編ヲ第一條  
ヨリ起始スヘシ(委員長) 其義ハ今爰ニ論スルニ及ハサルナリ  
(箕作) 財産取得編ト云フニテ可ナリヤ(粟塚) 財産取得方法  
編トシテモ可ナリ(箕作) 他日コートニ編集スルモ第三編ト云



ハサルカ（栗塚）其時ハ第三編ト云フヘシ（箕作）然ラハ可ナルヘシ（栗塚）前編ト云フハ財産編トスヘシ（箕作）財産編トスルモ他日コートチ成ストキハ前編トナルヘシ（栗塚）然リ（清岡）各編ニ第一條ヨリ起始スト云フハ甚タ不便ナリ（元尾崎）各編共ニ第一條ヨリ起始スト云フハ不可ナリ（栗塚）佛蘭西ニモ最初民法チ頒布シタルトキハ各編第一條ヨリ起始セリ（南部）人事編ノ如キハ未タ議定セス且ツ包括名義ノ如キモ未定ナレハナリ（栗塚）第九章第十一章ハ相續編ニ至密ノ關係チ有スルニ付キ此二章ハ報告委員ニテモ他日相續編ト共ニ議スルチ可ナリトス右ハ假令特定名義ニ屬スヘキニモセヨ相續編チ頒テ共議スルニアラサレハ不都合ニ付キ相續編ノ議定ノ模様ニ從ヒ之チ本部ニ復スルヤモ知ルヘカラス然ルニ特定名義ト包括名義トチ合併セントスルハ不可ナリトス

第一部 特定名義ノ取得方法

第一章 先占

第六百二條 先占ハ無主ノ動產物チ己レニ屬セシムルノ意思チ以テ最先ノ占有チ爲スニ因リテ其所有權チ取得スルノ方法ナリ

（栗塚）己レニ屬セシムルトアルハ己レノ所有ト爲ストシタシ  
可決ス

第六百三條 狩獵ノ目的ト爲ル可キ禽獸ニシテ他人ノ所有地内ニ在ルモノハ其地主ノ之チ放置キ又ハ飼附ケタルモ自由ニ飛走スルトキハ先占ニ因リテ之チ取得スルコトチ得

私有ノ池、湖又ハ水流ニ在ル魚類ニ付テモ亦同シ

第六百三條 狩獵ノ目的ト爲ル可キ禽獸ハ他人ノ所有地内ニ在ルトキト雖トモ先占ニ因リテ之チ取得スルコトチ得但シ圍障アル所有地内ニテ其地主ノ放置キ又ハ飼附ケタルモノハ之チ返還シ又ハ其代



價ヲ拂フコトヲ要ス私有ノ池、湖又ハ水流ニ在ル魚類ニ付テモ亦同シ

(栗塚)本條ハ種々沿革ヲ經タル法條ニシテ最初起案者ノ精神ハ悉皆消滅ニ歸シタリ種々研究ヲ盡シタル末再調査案ニ對シ報告委員ヨリ之ヲ修正シ狩獵ノ目的ト爲ル可キ禽獸ハ他人ノ所有地内ニ在ルトキト雖トモ先占ニ因リ之ヲ取得スルコトヲ得但他人ノ所有地内ニテ其地主ノ放置キ又ハ飼附ケタルモノハ之ヲ返還シ又ハ其代價ヲ拂フコトヲ要ス私有ノ池、湖又ハ水流ニ在ル魚類ニ付テモ亦同シトセリ(清岡)自由ニ飛走スルトキト云フ字ハ必要ナルヘシ(笑作)他人ノ所有地内ニ在ルモノハ無主物ニアラサルヘシ(栗塚)田ノ如キハ有主物ナルモ外ヨリ飛來レル鳥ノ如キハ之ヲ有主物ト云フヲ得ス(村田)本條ハ刪除シタシ(松岡)先占權アル物ハ賠償ノ義務ナカルヘシ(笑作)起案

## 民再調二ノ五三

者ハ先占權ヲ以テ之ヲ得取スルヲ得ヘシト云フ義トシタレハ寧ロ論理上不都合ナシ(南部)本條ノ如キハ無主物ノ性質タルヲ示シ置カサレハ若シ此場合ニ反スル如キ行爲ヲ爲シタルトキハ盜取シタル者トナルヘシ(委員長)本條ノ如キハ有主物ト無主物ノ間ニ在ルモノナレハ法律上其規定ヲ示サ、レハ裁判官ハ甚タ困惑スヘシ(榎村)田内ニ在テハ之ヲ有主物トシ田外ニ於テハ之ヲ無主物トスヘシ(南部)田内ニ在ル物ハ之ヲ有主物トスルトキハ鳥類ノ人家ニ來去スル者ヲ得取スル如キハ竊盜罪ヲ造出スルニ至ルヘシ(委員長)田内ニ在ルトキハ所有權アリト云ハサルヘカラス(栗塚)本條ハ營目白ノ如キ常ニ飼養シアル者ヲ云フニアラス又脱兎走鹿ノ如キ其田内ニ投入シタル者ヲ以テ所有權アリト云フヲ得ス(委員長)先占權アル者ニシテ賠償ヲ要スヘキハ如何(笑作)最初ハ田内アル地ニ於テ得



取シタル禽獸ハ返還賠償ノ義務アリトシ困障ナキ地ニ於テ得取シタル禽獸ハ得取者ノ先占權アリト云フ義トナレリ（栗塚）最初ノ原案ニ復シテハ如何（松岡）最初ノ原案ニテハ現物若クハ代價ヲ償ヘハ人ノ取有地ニ於テ獲リニ彈丸ヲ發炮スルモ可ナルカ如クナレハナリ本條ハ刪除シテハ如何（尾崎）困障内外ニ於テ區別スルノ說ヲ可トス（西）此點ハ刪除スヘシ（南部）困障ノ内外ニ於テ區別スルニ至テハ甚タ不可ナリ寧ロ刪除スヘシ多數ニ依リ刪除ス

第六百四條 狩獵、捕魚ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

戰時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ

無異議

第六百五條 物ノ占有者カ委棄物ヲ先占シタリト主張スルトキハ原

起案者カ此條ヲ第六百三十七條ノ次ニ移シタリ和郎ハ此條ヲ舊ノ如ク此ニ置クコトヲ建議ス蓋第八章

ヲ削除セントスルカ爲メナリ

民再調二ノ五四

所有者ノ任意ノ委棄ヲ證明スルノ責ニ任ス

（栗塚）本條ハ「物ノ占有者カ」ト云フヲ刪リ主張スルトキハトアルヲ主張スル者ハトシテハ如何可決ス證明ハ例ニ從ヒ證スルトス

第六百六條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ屬セシム

埋藏物ヲ覆蓋セシ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ

（栗塚）本條他人ニ屬スル物ノ中ニトアルヲ他人ノ所有物ノ中ニトシ發見者ニ屬セシムトアルヲ發見者ニ附與セシムトシ埋藏物ヲ覆蓋セシトアルヲ埋藏物ノ隱匿セシトシタシ（三島）埋藏物ノ埋藏セント云ヘハ意義適當ナルモ同文字ヲ避ケントスルニ依リ頗ル苦シカルヘシ（尾崎）埋藏物ノ埋レ又ハ藏レタル所ノトシテハ如何（松岡）埋藏物ノ埋藏トナリテハ不可ナリ（三島）

日本學報



包獲トシテハ如何(委員長)埋藏物カ埋モレ又ハ隠レタル所ノ  
トスヘシ可決ス

第六百七條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三今年間ニ非サレハ前條ノ  
付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス  
此期間ハ原所有者カ埋藏物ヲ覆蓋セシ物ノ所有者タルニ於テハ其  
發見ヲ知リタル後一今年間ニ之ヲ短縮ス  
然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ民事時効ヲ適用  
ス

本條埋藏物ヲ覆蓋セシトアルヲ埋藏物ノ埋モレ又ハ隠レタルト  
セリ(笑作)民事時効トアル民事ハ罰ルヘシ民刑ノ差別ニアラ  
サレハナリ可決ス

第二章 添附

第六百八條 動產ト不動產ト之間ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附屬

民再調二ノ五五

トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ從ヒ且替價ヲ拂ヒテ取得ス

無異議

第一節 不動產上ノ添附

第六百九條 建物其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附着セル土地又ハ建  
物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク  
但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

右建物其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但名  
義又ハ時効ニ因リ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス  
植物ニ關スル場合ハ第六百十一條ノ規定ニ從フ

(栗塚)本條建物其他ノトアルヲ建築其他ノトシ右建物トアル  
ヲ右建築トスヘシ可決ス

第六百十條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ工作  
ヲ爲シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スルノ強要ヲ受



ケス又材料ノ本主ニ其取去ヲ強要スルコトヲ得ス  
然レトモ右ノ所有者ハ第四百五條ノ規定ニ從ヒ材料ノ本主ニ替償  
スルノ責ニ任ス

(粟塚)本條第二項替償スルトアルヲ償金ヲ拂フトシ第一項ハ  
工作ヲ爲シトアル上ニ建築其他ノト云フ字ヲ加ヘタシ可決ス

第六百十一條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル  
土地ノ所有者又ハ占有者ハ一今年内ニ其草木ヲ拔取り且之ヲ返還  
スルノ強要ヲ受ク尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス

右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植時ヨリ一今年ヲ經過シ  
タルトキハ其所有者ハ金錢ノ替償ヲ受ク

(粟塚)本條第二項金錢ノ替償ヲ受クトアルヲ償金ヲ受クトス  
ヘシ可決ス(元尾崎)本條ハ他人ノ草木ヲ栽植シタル場合カ(笑作)判然他人ノ草木ト云フヲ知レハ其草木ヲ栽植スルモノナ

民再調二ノ五六

カルヘキモ判然所有權ノ明カナラサルコトアレハナリ

第六百十二條 (場圃削除)

第六百十三條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又  
ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ  
所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ  
取拂フノ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間  
代ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ

築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ惡意ノ占有者タリシトキハ所有者ハ  
工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルトキ  
ハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者  
ニ替償シテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ得

(粟塚)本條替償シテトアルハ償金ヲ拂ヒテトスヘシ可決ス(笑作)材料及ヒ手間代ト云フハ材料及ヒ手間ノ代價トシテハ如



何可決ス

第六百十四條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス水流ノ寄洲ハ沿岸所  
有者ニ屬ス

寄洲カ水流ニ並行シ又ハ殆ント之ニ並行シテ沿岸ノ數箇ノ土地ニ  
生シタルトキハ所有者ノ各自ハ其土地ノ内部ノ廣狹ニ拘ハラズ水  
流ニ接シタル土地ノ部分ニ付キ右ノ寄洲ヲ利得ス

右ニ反シテ寄洲カ水流ト角度ヲ成シ所有者ノ各自ニ歸ス可キ部分  
ヲ定メ難キトキハ其各所有者ハ分割スルコトヲ得サル部分ニ付キ  
水流ノ舊狀ニテ其水流ニ接スル所有地ノ部分ノ割合ニ應シ共有者  
ナリ

如何ナル場合ニ於テモ沿岸者ハ官府ノ許可ナクシテ從來存スル挽  
船路又ハ沿岸路ノ位置ヲ變更シ又寄洲ニ於テ挽船又ハ通航ノ便ヲ  
妨ク可キ築造又ハ栽植ヲ爲スコトヲ得ス

民再調二ノ五七

(栗塚) 官府トアルハ行政官トスヘシ可決ス(笑作) 寄洲ハ沿  
岸所有者ニ屬ストスレハ其沿岸者ニ於テハ頗ル幸福ニアラスヤ  
(栗塚) 内務省地理局及ヒ土木局ニ協議シタルニ不都合ナシト  
云ヘリ(委員長) 沿岸所有者ノ所有ニ屬スト云フモ其爲ノ他ニ  
妨害ヲ起生スルトキハ行政權ヲ以テ之ヲ抑制スヘシ(笑作) 其  
特別規定ハ何レニアルヤ民法獲得編ニテ其所有權ヲ屬セシムル  
以上ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルヘシ(南部) 水路ニ害アル場合ハ  
特別法ニテ其制裁ヲ附スヘシ(委員長) 河川ニ付テハ舊慣ノ存  
スルモノアレハ行政權ヲ以テ之ヲ處分スヘキモ今ノ論點ニ付テ  
ハ尙ホ内務省ニ問合スヘシ(笑作) 第四項從來存スルトアルヲ  
從來ノトシタシ可決ス

第六百十五條 沿岸者ハ右同一ノ區別及ヒ條件ヲ以テ舟筏ノ通スル  
ト否トヲ問ハス河川ノ干瀉ヲ利得ス



然レトモ川床ノ沿岸者ニ屬スルト公有ニ屬スルト中間ハス漸次生シタル干瀉ノ添付ハ舊川床ノ全幅員以外ニ廣マルコトヲ得ス

此添付ノ權利ハ湖池及ヒ海ノ干瀉ニ付テハ存立セス但海ノ干瀉ハ第二十四條ノ規定ニ從ヒ國ニ屬ス

舟筏ノ通スル水流ニ於テ官府ノ爲シタル掘削又ハ堤防ノ工事ニ因リテ干瀉ト爲リタル部分ハ沿岸者ニ利セス但行政法ノ規定ニ從ヒ沿岸者ノ行フ先買權ヲ妨ケス

無異議

第六百十六條 河川ノ水ノ衝激カ沿岸地ノ一分ヲ剷去シテ下流ノ沿岸地又ハ對岸地ニ轉送シ其孰レノ所有地ノ部分タルヤチ仍ホ認知ス可キトキハ占有ヲ失ヒタル所有者ハ變災ヨリ一个年内ニ非サレハ右ノ土壤ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ス又一个年後ニ於テハ沿岸者カ未タ之ヲ占有セサル間ノミ其回復ヲ請求スルコトヲ得且所有

民再罰二ノ五八

者ハ自費ニテ其土壤ヲ收去シ又收去ニ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

沿岸者ハ何時テモ右土壤ノ回復ヲ爲スカ又ハ單一ナル委棄ヲ爲スカ二者ノ其一ヲ選擇セシムル爲メ所有者ニ催告スルコトヲ得

樹木、收穫物、木材其他ノ動産物カ洪水ノ衝激ニ因リ押流サレテ他人ノ土地ニ轉從シタルトキハ如何ナル方位ニ在ルモ本條ノ規定ニ從フ但此等ノ物カ何人ノ所有タルヲ認知ス可ク且漂流物ニ非サルコトヲ要ス

(果樹)本條第二項右土壤ノ回復ヲ爲スカ又ハ單一ナル委棄ヲ爲スカ二者ノトアルヲ右土壤ヲ回復スルカ又單一之ヲ委棄スル

カトシ第三項何人ノトアルヲ某ノトシタシ(委員長)某ハ誰ト

スヘシ可決ス(尾崎)土壤ヲ回復スルト云フハ證無カルヘシ(

元尾崎)其權利ヲ云ヒシモノナレハ差支ナシ



第六百十七條 舟筏ノ通スル河川ニ生シタル中洲ハ水流ノ等級ニ從ヒ國、府、縣又ハ市町、村ニ屬ス  
 舟筏ノ通セサル水流ニ生シタル中洲ハ川床ト同シク沿岸者ニ屬ス  
 兩側ノ沿岸者ノ權利ヲ定ムルニハ水流ノ中心ニ縱線ヲ畫シ各沿岸者ハ自己ノ方ニ在ル中洲又ハ其部分ヲ利得ス  
 中洲カ一方ノ數箇ノ所有地ノ前面ニ在ルトキハ第六百十四條第二項ノ規定ニ從フ

(松岡) 本條第二項川床ト同シクトアルハ川床カ沿岸者ニ屬スル如ク中洲モ亦沿岸者ニ屬スト云フ義ナレハ刪除シテ可ナリ  
 (渡) 刪除スルノ必要ナシ(南部) 川床カ沿岸者ニ屬スレハ中洲モ沿岸者ニ屬スト云フ義ナリ(松岡) 川床ノ沿岸者ニ屬スル如クト云フ意義ナリ(栗塚) 松岡委員ノ論ハ如何ト云フニアリヤ(松岡) 舟筏ノ通セサル水流ノ川床ハ沿岸者ニ屬スルモノト

民再調二ノ五九

爲リシヤ(栗塚) 然リ(松岡) 其定ハ何條ニアリヤ(箕作) 沿岸者ト云フハ町村ノ所有ナレハ其町村ヲ指シテ國郡ノ所有ナレハ國郡ヲ指スヘシ(栗塚) 然リ(元尾崎) 沿岸ノ市町村ニ戸口アル部分ハ何レニ屬スルヤ(尾崎) 尙ホ内務省ニ質問スヘシ(栗塚) 犀川ノ如キハ郡村ノ所有ナルモ實際其川床ハ沿岸ノ人戸ニ屬セリト云フ起案者ハ中洲ト沿岸者ト睽離セシメサルニアル意味ナレハ其川床ヲ所有スル者ニ屬ストシテハ如何(南部) 所有者ト云フハ不可ナリ(委員長) 沿岸者ハ沿岸地ニ所有權アル者ニシテ沿岸地ニシテ所有權ナキ者ハ殆ント有セサルヘシ(松岡) 沿岸者ニシテ皆其沿岸ニ所有權ヲ有スルモノト云フヲ得サルヘシ(箕作) 川床ノ所有者ト中洲ノ所有者ト別異ナルハ不都合ナリ(委員長) 中洲ハ川床ノ所有者ニ屬セシメテハ如何(尾崎) 斯ノ如クスレハ日本ノ實際ニハ乖離スヘシ(委員長) 假令



ハ川床ハ國郡ノ所有ナルニ干瀉シタル部分ハ沿岸者之ヲ所有ス  
ヘシト云フハ不都合ニ非ラスヤ(松岡)本會ニテ議論ノアル點  
ヲ舉示シ之ヲ内務省ニ質議シテハ如何(南部)不動産ノ添付ニ  
付テハ皆質門スヘシ可決ス

第六百十八條 或ル土地ヨリ割去セラレタル土壤カ水流中ニ止マリ  
テ中洲ヲ成シタルトキハ所有者ハ其存在スル場所ニ於テ之ヲ占有  
スルコトヲ得

然レトモ公有ノ水流ニ付テハ漸積ノ中洲ノ所有權ニ關スル前條ノ  
區別ニ從ヒ國、府、縣又ハ市町、村ハ正當ノ替償ヲ豫メ拂ヒテ其讓  
渡ヲ要求スルコトヲ得

異議ナク

第六百十九條 舟筏ノ通スルト否トチ間ハス水流カ新ニ支流ヲ成シ  
沿岸地ノ全部又ハ一分ヲ中洲ト爲シタルトキハ此土地ノ所有者ハ

民再編二ノ六〇

其所有權ヲ失ハス但前條ノ規定ニ因ル所有權徵收ノ權利ヲ妨ケス

無異議

第六百二十條 二箇ノ土地ノ分界ヲ成シテ沿岸者ニ屬スル舟筏ノ通  
セサル水流カ突然且全然其水路ヲ變シタルトキハ舊川床ノ所有權  
ハ兩沿岸者ニ屬シ第六百十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分割ス

舟筏ノ通スル水流ニ付テハ舊川床ノ所有權ハ第八章ノ規定ニ從フ  
(栗塚)分界ヲ成シテトアルヲ分界ヲ成シ且トシ突然且全然ト  
アルヲ突然其小路ヲ全ク變シタルトキトシタシ(松岡)突然其  
小路ヲ全ク變シタルトキトスルハ可ナリ可決ス第二項ハ第六百

三十七條ニ於テ讓スヘシトス

第六百二十一條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引又ハ停  
留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者  
カ自己ノ所有ヲ證明シテ一週日間ニ之ヲ要求セサレハ其魚又ハ鳩

第二項ヲ  
削除シ第  
六百三十  
七條第一  
項ヲ此ニ  
移スノ建  
議蓋シ同  
一類ノ規  
定ナレハ  
ナリ



議場削除  
無用ナレ  
ハナリ

ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス  
群ヲ爲シテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコ  
トヲ得  
飼飼サレタルモ逃易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタ  
ル者ニ對シ一ヶ月間其回復ヲ爲スコトヲ得

無異議

第二節 動産上ノ添附

第六百二十二條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産物カ所有者ノ意  
ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ  
減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離  
ヲ請求スルコトヲ得但損害ノアルトキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠  
償ス附合ノ爲ノニセル物ノ變様ハ之ヲ毀損ト看做ス

(松岡) 改様ヲ變様トシタルハ假令ハ仕立商ニ羽織ノ仕立ヲ賜

民再編二ノ六一

託シタルニ其羽織ノ裏ハ他ノ裏衣ヲ附シタル場合ノ如シ

第六百二十三條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ之ヲ分ツカ爲メ著シ  
キ毀損若クハ減價ヲ爲シ又ハ過分ノ費用若クハ時日ヲ要スルトキ  
ハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘  
主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害  
ヲ加ヘテ己レヲ利シタル限度ニ應シ賠償ヲ負擔ス  
或ル物ノ便益、裝飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從  
タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑ヒ有ルトキハ價格ノ低キ物ヲ  
以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於テ物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ審判ニ委ス

(栗塚) 本條第一項「之ヲ分ツカ爲メ」トアルチ又ハ之ヲ分ツ  
爲メトシ毀損若クハ減價ヲ爲シ又ハ過分ノ費用若クハトアルチ  
毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、トシタシ可決ス又審判ハ



審定トナレリ

第六百二十四條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詭譎ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒ其分離ヲ爲ス可カラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ第三百九十條及ヒ第四百五條ニ依リ之ヲ評定ス

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル所有者ノ利益ノ限度ニ應シテノミ其損失ノ賠償ヲ受ク

(粟塚) 詭譎ト云フ字ハ詐欺トスヘシ此文字ハ商法報告委員ノ協議アリシニ因リ然シタリ(松岡) 可ナリ可決ス

第六百二十五條 物ノ分離ヲ爲ス可カラサル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

民再調二ノ六二一

無異議

第六百二十六條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス

然レトモ分離スルコトヲ得サル物カ其性質及ヒ品質ノ同シキニ因リ共有ト爲ル可キトキハ各自ノ權利ハ己レヨリ出テタル物ノ數量ノ割合ニ應ス

無異議

第六百二十七條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スルノ責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シ同品質ノ物又ハ其價金ヲ要求スルコトヲ得

(南部) 價金ノ文字ハ先例シ因リ代價トスヘシ可決ス

第六百二十八條 或ル人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作り



タルトキハ物料ノ所有者ハ手間代ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得

然レトモ手間代カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルトキハ新ナル物ノ所有權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スルコトヲ要ス

製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルトキハ其物料ノ價額ハ優勝權ヲ定ムル爲メ之ヲ手間代ニ合算ス

所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用ヒタルトキハ其所有權ハ常ニ自己ノ優勝權ヲ拋棄シテ同品質同數量ノ物又ハ其價金ヲ要求スルコトヲ得

(箕作)優勝權ノ文字ハ定マレルヤ(栗塚)優勝權ノ文字ハ初テ現出シタリト云フモ可ナリ(三島)今村氏ハ先ンスト云フ意ニアラスト云ヘルヲ以テ優勝トシタリ(栗塚)優勝劣敗ト云フ

熟字アルヲ以テ優拔トカ又ハ優特トシタシ(南部)優先ニテ可ナリ(清岡)優勝ト云フ字ハ妥當ナリ多數ニ依リ優先トスルニ決ス

第六百二十九條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以テ成ルトキハ所有權ハ契約ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑ヒ有ルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得ス且優勝權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

無異議

第六百三十條 前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且自然ノ公義ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ事件ヲ審判ス

(栗塚)事件ト云フ字ハ元ト問題トアリシモ這回之ヲ事件トシタルニ付キ其當否ヲ決セラレタシ(尾崎)論點トシタシ(北島)



然カシタシ可決ス

第六百三十一條 第六百六條ニ從ヒ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ因リ其埋藏物ヲ覆蓋セシ動産又ハ不動産ノ所有者ニ屬ス」  
 若シ其動産又ハ不動産ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス  
 所有者ノ所爲又ハ其命令ヲ受ケ若クハ受ケサル第三者ノ所爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六百七條ヲ以テ定メタル時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

(北島)本條ハ覆蓋セシト云フヲ埋モレ又ハ隠レタル所ノトスルハ妥當ナラス(南部)何レモ同一ナラサルヘカラス

第三章 善意ナル占有者ノ果實ノ收取

全章削除建議

民再編二ノ六四

以下數章削除ノ理由ハ別紙ニ記ス

第六百三十二條 善意ナル占有者ノ天然及ヒ法定ノ果實ノ取得ハ第二百六條ヲ以テ之ヲ規定ス

(栗塚)本條ハ財産編ニモ規定アルヲ以テ之ヲ削除シタシ可決ス

同前

第四章 引渡

第六百三十三條 種類及ヒ數量ノミヲ以テ定メタル物ノ所有權ハ第三百五十二條及ヒ第四百七十六條ノ規定ニ從ヒ其物ノ屬スル者ヨリ又ハ其名ヲ以テ爲シタル引渡ニ因リテ移轉ス

引渡ナキトキハ當事者互ニ立會ノ上ニテ物ヲ指定スルヲ以テ足レリトス

(栗塚)本條モ右ト同様削除スヘシ可決ス

第五章 公用徵收ニ關スル裁判上又ハ行政上ノ行爲

第六百三十四條 公用徵收ニ服シタル財産ノ熟讓ノ讓渡ナキトキハ

同前



所有權徵收ヲ宣言スル裁判上又ハ行政上ノ行爲ハ其行爲ニ於テ定  
ノタル負擔及ヒ條件ヲ以テ國、府縣、町、村又ハ其權利ノ讓受人  
ニ右財産ノ所有權ヲ移轉ス但第三十二條第三百六十八條第五號及  
ヒ公用徵收法ノ規定ニ從フコトヲ要ス

(栗塚)本條モ行政法ニ屬スヘキ者ナレハ删除スヘシ(元尾崎)  
本條ノ規定アラサレハ行政官ノ專恣ヲ防ク能ハス(松岡)行政  
官ノ專恣ヲ防クノ點ハ他ニ其規定アリ即チ删除ニ決ス

第六章 公賣競落

第六百三十五條 無訟手續ニ關スル法律ニ從ヒ動産又ハ不動産ノ差  
押ニ付キ裁判上ニテ宣言セル競落ハ競落證書ニ記載シタル負擔及  
ヒ條件ヲ以テ其財産ノ所有權ヲ競落人ニ移轉ス

法律ノ命シ又ハ許シタル諸種ノ場合ニ於ケル公賣競落ニ付テモ亦  
同シ

同前

民再創二ノ六五

(栗塚)本條ハ訴訟法ニ屬スヘキモノナレハ删除シテ可ナリ可  
決ス

第七章 特別ノ沒收

第六百三十六條 刑法ノ規定ニ依リ特別ノ沒收ヲ爲ス判決ハ沒收物  
ノ所有權ヲ國、府縣、町、村又ハ行政法ヲ以テ指定シタル公設所  
ニ移轉ス

(栗塚)本條ハ刑罰ナルヲ以テ之ヲ取得方法トスルヲ得ス故ニ  
删除スヘシ可決ス

第八章 法律ノ直接ノ付與

第六百三十七條 舟筏ノ通スル河川カ其水路ヲ變シ新河川ヲ爲スト  
キハ浸沒地ノ所有者ハ其失ヒタル土地ノ割合ニ應シ替償ノ名義ヲ  
以テ舊川床ヲ取得ス但舊川床ノ面積カ浸沒地ヨリ一層廣キトキト  
雖モ右ノ割合ヲ以テ之ヲ取得ス

第六百二十  
條ニ併合ス  
ルノ建議



此項ヲ舊場  
所ニ復スル  
建議

(第二十四條)  
或ハ所有者  
、及ヒ  
マテ十字ヲ削  
除シ相續人  
以下相續ノ  
章ニ移スモ可  
ナリ此ニ所  
有者ナキ不動  
產ト云ヘルハ  
主トシテ地面  
ヲ言フナリ故  
ルニ之ヲ削除  
ルモ害ナシ  
削除建議

削除建議  
第三百二

所有者ナキ不動産及ヒ相續人ナクシテ死亡シタル者ノ遺産ハ當然  
國ニ屬ス

(粟塚)本條第一項ハ第六百二十條ノ第二項トシタシ同條第二  
項ハ第二十四條ノ第二項ト爲スヘシ可決ス

第六百三十八條 右ノ外法律ノ直接ノ効力ニ因リ所有權、用益權、  
地役、抵當其他物上及ヒ對人ノ權利ヲ取得スル場合ハ其各事項ニ  
於テ之ヲ規定ス

本條ハ無用ナリト云フニテ削除ス

第九章 特定名義ノ遺贈

(粟塚)本章ハ人事編包括名義ノ讓定マテ留保ニ附スヘシ可決  
ス

第十章 無名契約

第六百五十五條 下ノ諸章ニ規定シタル契約ノ外尙ホ各人ハ物權若

民再調二ノ六六

十四條參  
觀理由ハ別  
紙ニ載セ

此章ハ人事  
編ト同時ニ  
議定ス可シ  
理由ハ別紙  
ニ詳カナリ

クハ人權ヲ創設シ移轉シ變更シ又ハ消滅セシムル爲ノ適宜ニ契約  
ヲ取結フコトヲ得之ヲ無名契約ト云フ但公ノ秩序又ハ善良ノ風俗  
ニ違ハサルコトヲ要ス  
無名契約ハ本編第二部ノ規定及ヒ此ト最モ類似スル有名契約ニ關  
スル規定ニ照準ス

(粟塚)本條ハ削除スヘシ只學理上ノ問題ニシテ別ニ要用ノ條ニ  
アラサレハナリ可決ス

第十一章 生贈

(粟塚)本章ハ第九章ト同理由ニ付キ留保ニ附シタシ可決ス

第十二章 賣買

第一節 賣買ノ通規

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第六百六十一條 賣買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ

日本學術振興會



移轉シ又ハ移轉スルノ義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マ  
リタル代金ノ辨濟ヲ負擔スルノ契約ナリ

賣買契約ハ下ノ規定ニ從フノ外有償且双務ナル契約ノ總般ノ規則  
ニ從フ

（栗塚）第十二章ハ第三章トシ賣買ノ通規ト云フハ賣買ノ通規  
トスルコトトナレリ又總般トアルチ一般トセリ

第六百六十二條 賣買ハ當事者ノ承諾ノミチ以テ完全ニ成立ス

然レトモ當事者ハ賣買チ各自ノ證據ニ供スル公正證書又ハ私署證  
書ノ錄製ニ繫ラシムルコトヲ得

（笑作）各自ノ證據ニ供スルト云フハ必要アリヤ

（栗塚）註解シタルニ過キサルナリ

第六百六十三條 賣渡又ハ買受ノ片務ノ豫約カ承諾チ得タルトキハ  
要約者カ第三百二十九條ノ條件ニ從ヒテ契約ノ取結チ要求スル時

修正建議  
（別紙）  
ト案

民再調二ノ六七

ヨリ諸約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條件ヲ以テ契約ヲ取  
結フノ義務ヲ負擔ス

（栗塚）豫約ト云フ字ニ付テハ刪除建議アルモボアソナート氏  
ヨリハ之ヲ刪除スルノ不可ナル旨ヲ示シ來レリ依テ此文字ハ存  
在セシメラレタシ（松岡）片務ノ豫約カトアルハ一方ノ豫約ト  
云フ如キ意味ニシテ片務ノ豫約ト云フハ妥當チ得ス片務ト云へ  
ハ契約ノ性質トナレハナリ（西）片方トシテハ如何（笑作）一  
方ト云へハ耳聞ニ奇異チ感セス（栗塚）一方トスヘシ（清岡）  
今村氏ノ建議ノ如クスルハ不都合ナルカ（栗塚）今村氏ハ豫約  
ノ文字ヲ極沮泊ニ視認シ第六百六十二條第一項チ重視シタルモ  
決シテ賣買ハ當事者ノ承諾ノミチ以テ完全ニ成立シタルモノト  
スルチ得ス必ラス豫約ト云フ一階級アルチ要用ナリトス（松岡）  
豫約ト云フ實例ハ如何（栗塚）買者ハ確實ニ之ヲ購得セントシ



賣者モ稍賣却ノ意思ヲ示シタルモ判然賣却スルノ契約ナラサル  
場合ヲ云フ（松岡）豫約ト云フハ商法上提供ト云フ義ト差異ア  
リヤ（栗塚）豫約ト提供ト差異ナカルヘシ（村田）提供ハ之ヲ  
變更スルヲ得ルモ豫約ハ變更スルヲ得ス（松岡）豫約モ相手方  
ノ承諾アラサル間ハ之ヲ取消スルヲ得ヘシ（南部）賣ラントス  
ルト賣ルトノ差ハ佛蘭西法律書ニモ裁示シタレハ豫約ハ賣ラン  
トスル言詞ニ當リ賣ルト云フハ契約ナリ（西）賣者ハ之ヲ賣却  
スヘシトシ買者ハ事宜ニ從ヒ之ヲ購得スヘシト云フトキハ豫約  
ト云フモノナリ（尾崎）其豫約ニハ賣者買者何レモ其束縛ヲ被  
ムルコトナシ（西）賣者ハ束縛サル、モノナリ（松岡）右ハ提  
供ト異ルモノナシ（南部）賣買ト豫約トハ二致アルモノト認メ  
サルヘカラス（尾崎）賣買ト豫約トハ二種ノモノナルヘキモ實  
際其區別ヲ見ルニ苦ノリ（松岡）豫約ト提供トノ區別ニ苦シム

民再調二ノ六八

ヘシ（箕作）豫約ハ義務ヲ生スルモ提供ハ未タ義務ヲ生セサル  
ヘシ（尾崎）提供ヲ承諾セラレタルトキ豫約ヲ生スヘシ（箕作）  
承諾ヲ得タルトキハト云フニ疾ヒアリ（栗塚）豫約ヲ承諾シタ  
ル義ニシテ契約上ノ承諾ニアラサルヘシ（松岡）佛蘭西法ノ提  
供ト云フハ如何（栗塚）佛蘭西法ト遠路隔絶ノ場合申シ通スル  
ヲ云フニアリテ近在者間ニ在ラサルナリ（松岡）商法ニテハ所  
在ノ遠近ヲ論セス提供ヲ認ムルニ付キ彼是差異ヲ生スルニ依リ  
不都合ナリ（尾崎）今村氏ノ意見ニ從フトキハ不都合アルカ（  
栗塚）豫約ト云フ階級ヲ廢シ賣買即成トスルトキハ豫約ヲ以テ  
其他險ヲ負擔セサルヘカラサルヘシ結局片務ノ豫約カ承ヲ得タ  
ルトキトアルハ一方ノ豫約アルトキトスルニ決ス

第六百六十四條 諾約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ  
賣買カ其相應ノ効力ヲ以テ成立シタリトノ判決ヲ爲ス

削除建議

日本學術振興會



不動産權ノ賣買ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス  
賣買ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ノ縁邊ニ之ヲ附記ス  
其登記ハ賣主ノ承接人ニ對シ既往ニ遡リテ効力ヲ生ス

承接人ハ承繼人ト修正セリ

第六百六十五條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得  
裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ賣買ノ豫約カ即時ノ賣買ノ効ヲ有シ又期間ヲ定メタルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用スルモノタルヲ決定スルコトヲ得

解釋ハ解釋トシ決定ヲ判決トス

第六百六十六條 前四條ニ從ヒ當事者ノ双方又ハ一方カ日後賣渡及ヒ買受ノ契約ヲ取結ヒ又ハ單ニ證書ヲ錄製スルノ義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ與ヘタルトキハ契約ヲ取結

又ハ證書ヲ錄製スルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニシテ還償ス

(清岡) 手附ト云フハ買者ニ適用スル文字ニシテ賣者ニハ適用セサルモノナリ(栗塚) 違約金トシテハ如何(笑作) 違約金ト云ヘハ過意約款ニ類スルノ不都合アリ(栗塚) 破約金トシテハ如何(尾崎) 豫約ノ擔保トシテ與フルモノナレハ手附ト云フニテ不都合ナシ

第六百六十七條 即時ノ賣買ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲ル但買主ノ與ヘタル手附カ金錢ナルトキハ之ニ解約ノ性質ヲ明示スルコトヲ要ス  
契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス

(村田) 解約ノ方法ト爲ルト云フモ方法ノ文字明了ヲ得ス(笑)



作一品物ナルトキハ其手附ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解  
約ノ方法ト爲ルニ買主財物ヲ與ヘタルトキハ之ニ解約ノ性質ヲ  
明示スルヲ要スト云フハ日本ノ人情ニ恰當シタルモノトセス(尾崎)  
此意義如何(栗塚)財物ハ内金ト看做サル、ノ恐レアレ  
ハナリ(松岡)本條ハ商法第三百四十一條ト等シク手附金ヲ拋  
棄シタルトキハ解約スルヲ得ト云フ意味ニ修正シタシ可決ス  
第六百六十八條 嘗試ノ賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又  
ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得  
試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シ  
タルモノト推定ス

(栗塚)嘗試ノ賣買ト云フハ嘗試ノ上ニテ爲ス賣買ハトシテハ  
如何(松岡)商法ニ點驗ト云フ字アレハ此嘗試モ之モ點驗トシ  
テハ如何(栗塚)試験ノ上ニテ爲ス賣買トシテハ如何(南部)

民再調二ノ七〇

試験ハ試験トセサレハ不可ナク結局試験ノ上ニテ爲ス賣買ハト  
スルニ決ス(松岡)商法ノ嘗試ト云フモ試験トセサルヘカラス  
(箕作)商法ニ在テハ嘗試ト云フニ試味ト云フ意義ヲモ包含セ  
ルモノナレハ其儘ニシテ可ナリ

第六百六十九條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ己レニ屬  
スル機能ノ行使ニ付キ期間ヲ定メサルトキハ短キ期間ニ於テ決答  
ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サスシテ賣渡物ノ引渡ヲ受ケタ  
ルトキハ買主ハ承諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒  
絶シタリトノ推定ヲ受ク

(村田)商法ニテハ決答スヘキ催告ヲ受ケサルニ民法ハ其催告  
ヲ受クヘキヤ(村田)商法ト民法トハ緩急ノ差アレハナリ

第六百七十條 賣買ノ代價ハ金額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定  
ムルコトヲ要ス



又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委カセ或ハ  
契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評價ニ委カスコトヲ得  
右末ノ場合ニ於テ評價力錯誤ニ出テタルカ又ハ明白ニ公平ニ反ス  
ルトキハ其評價ニ異議ヲ爲スコトヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリ  
ト主張スル一方カ評價ヲ知りタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詭譎アルトキハ第三百三十  
三條及ヒ第五百六十六條ノ規定ヲ適用ス  
當事者ノ定メタル代價ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヨリ成  
立スルコトヲ得然レトモ第三者カ代價ヲ定ムルトキハ其代價ハ元  
本ノミニ非サレハ成立スルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣  
キ權限ヲ第三者ニ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス  
（村田）目安ヲ契約スルト云フハ一坪幾圓ト云フ類ノ如シ（栗  
塚）目安ヲ以テ云々トシテハ如何（清岡）目安ヲ以テト云フハ

不可ナリ（笑作）末ノ場合ニ於テト云フヲ刪除シテハ如何可決  
ス（栗塚）第五項ノ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ト云フハ  
元本又ハ年金權トシテハ如何（笑作）原案ノ儘ヲ可トス  
第六百七十一條 賣買契約ノ費用ハ當事者双方平分シテ之ヲ負擔ス  
但双方カ別段ノ定メテ爲シタルトキハ此限ニ在ラス  
（松岡）賣買契約ハ該ニ賣買契約書トセシニアラスヤ（栗塚）  
契約ノミナラス賣買ノ證據物ハ之ヲ包含スヘシト云フニテ書ノ  
字ヲ刪レリ  
第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力  
第六百七十二條 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トチ間ハス賣買  
ノ契約ヲ禁ス  
配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ  
消滅セシムルニ相互ニ代物辨濟ヲ爲スコトヲ得



右代物辨濟ハ相當ノ證明ヲ爲セル後民事裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有効且完全ナラス  
又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物辨濟ハ證書ノ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ効力チ有セス

(粟塚)本條第二項消滅セシムルニトアルハ消滅セシムルニハト云フヘキ誤脱ナリ(清岡)夫婦間ニ代物辨濟ヲ爲スニハ裁判所ノ認許ヲ得ヘキト云フハ不都合ナリ(村田)民事訴訟法トアルハ民事ヲ謂ルヘシ可決ス(笑作)相當ノ證明トアルハ相當ノ證明トシタシ(粟塚)證明ヲ疎明トスル義ハ未タ確言セス(笑作)最早之ヲ確定セシメサレハ際涯ナカルヘシ可決ス

第六百七十三條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡又ハ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相続人及ヒ承継人ノミニ屬ス但其訴權ハ第五

民再調二ノ七二

百六十六條以下ノ總般ノ規則ニ從フ

本條ハ代物辨濟ノ上ニ認許ナキノ文字ヲ加ヘ承継人ハ承継人トシ總般ハ一般トセリ

第六百七十四條 法律上、裁判上若クハ契約上ノ代理人又ハ管理者ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ因ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財產ニ付キ協議上又ハ公賣上ノ取得者ト爲ルコトヲ得ス  
此制禁ハ公賣ヲ處理シ又ハ指揮スルコトヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

契約ハ合意トス(笑作)合意上ノ代理人又ハ管理者トアル「又ハ」ノ二字ハ不可ナリ(粟塚)又ハ即チノ意ナレヤ「代理人又ハ」ノ數字ヲ刪ルヘシ可決ス

第六百七十五條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除訴權ハ原所有者其相続人及ヒ承継人ノミニ屬ス



本條ハ承接人トアルチ承繼人トセリ

第六百七十六條 判事、檢事、及ヒ裁判所書記ハ當事者ノ間ニ争チ起シタル物權又ハ人權ニシテ其職務チ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ條件チ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之チ適用ス

(村田) 争チ起シタルト云フハ不可ナリ(栗塚) 争ニ係ルトシテハ如何可決ス

第六百七十七條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ争フ相手方、其双方ノ相續人及ヒ承接人ニ非サレハ之チ行フコトヲ得ス又權利ヲ争フ相手方、其相續人及ヒ承接人ハ讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息トチ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰チ妨ケス

本條モ承接人トアルチ承繼人トス(栗塚) 第三項ハ削除ノ建議

第三項  
削除建議

民再調二ノ七三

アルモ個ハ懲戒ヲ妨ケスト云フニ付キ刪除セサルチ可トス(松岡) 懲戒ニ屬スルモノハ懲戒令ニ轉移シテ可ナリ(村田) 公證人ノ如キハ懲戒令ナシ(南部) 公證人ト雖トモ懲戒處分ナキニ非サルナリ

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第六百七十八條 賣買カ性質ニ因リテ總般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法チ以テ各人ニ處分ヲ禁シタル物チ目的トスルトキハ其賣買ハ無効ナリ

此賣買ノ無効ハ排斥ニ依ルモ訴權ニ依ルモ當事者各自ニ之チ申立ツルコトヲ得

當事者ノ一方カ詭譎チ以テ賣買ノ制禁ナルコトヲ隱蔽シタルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス

(栗塚) 總般ハ一般トシ排斥ト云フハ抗辯トスヘシ(笑作) 訴



權ニ依ルモト云フハ奇異ナリ（樞村）抗辯ヲ以テスルモ訴權ヲ以テスルモトスヘシ（松岡）抗辯ニ依ルモハ訴ニ依ルモトスヘシ可決ス

第六百七十九條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者双方ニ於テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ申立ツルコトヲ得

相互ノ訴權、排斥ノ行使、代金ノ返還及ヒ賣主ノ負擔シタル賠償ニ關スル規則ハ次節ノ追奪ノ事項ニ於テ之ヲ規定

（村田）第三項ハ次節ニ示シタルコトノ送りニ過キサレハ刪ル

ヘシ（栗塚）報告委員ハ不知案内者ノ爲メニ存在セシムヘシト云フニアリ（清岡）刪除スヘシ其議ニ決ス

第六百八十條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ全部滅失シタルトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知

末項  
削除建議

民再調二ノ七四

ラサルノ過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠償ヲ妨ケス物カ一分ノミ滅失シ買主之ヲ知ラサリシトキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ用方ニ不十分ナルコトヲ證明シテ賣買ヲ銷除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保持スルコトヲ得但右二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス賣買銷除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知リタル時ヨリ六ヶ月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ右ノ時ヨリ二个年ヲ過クレハ之ヲ受理セス此他明示又ハ默示ノ認諾ノ場合モ亦同シ

本條ハ證明ヲ疎明トセリ

第二節 賣買契約ノ効力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第六百八十一條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ危險ニ付テハ第三百五十一條、第三百五十二條、第三百五十五條及ヒ第四百



三十九條ノ普通規則ニ從フ

無異議

削除建議

第六百八十二條 賣買ノ目的カ不動産ナルトキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承接人ニ對抗スルニハ第三百六十八條以下ノ規定ニ從ヒ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百六十六條及ヒ第三百六十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ有体動産及ヒ債權ノ賣買ニ之ヲ適用ス

本條ハ全然無用ナリト云フニテ刪除ノ建議アリ(笑作)本條ヲ無用ナリト云ヘハ自然前條モ無用ナルヘキニ至ル依テ本條ハ存在セシムヘシ可決ス又承接人ハ承繼人トス

第二款 賣主ノ義務

第六百八十三條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スルノ義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡スノ義務引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スルノ義務及ヒ

民再編二ノ七五

妨碍追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スルノ義務ニ任ス

無異議

第一則 引渡ノ義務

第六百八十四條 賣主ハ賣渡物ヲ其約束シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡スノ責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ約束セサリシトキハ第三百五十三條第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ

然レトモ買主カ代金辨濟ニ付キ契約上ノ期間ヲ得サリシトキハ賣主ハ其辨濟ヲ受クルマテ賣渡物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキト雖モ買主カ賣買後ニ破産シ若クハ無資力ト爲リ又ハ賣買前ニ係ル無資力ヲ隱蔽シタルトキハ尙ホ引渡ヲ遲延スルコトヲ得



本條ハ契約ストアルヲ合意上トス（箕作）遲延ト云フ次ハ妥當ナリヤ（尾崎）延ハスコトトシタシ（栗塚）原案ノ儘ニ附セラレタシ

第六百八十五條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡スコトヲ要ス

然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒ賣主又ハ買主ハ約定ノ數量ヨリ多ク讓渡シ又ハ取得スルノ責ニ任ス

無異議

第六百八十六條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル場合ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足スルトキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタルトキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス  
現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過スルトキハ買主ハ割合ヲ以テ代價

民再編二ノ七六

補足ノ要求ニ服ス

無異議

第六百八十七條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ惡意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シタルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクとも二十分一ナルトキニ非サレハ代價減少ノ要求ニ服セス  
面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記ハ惡意ナル賣主ノ責任ヲ減セス

超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過カ二十分一二及ヘルトキニ非サレハ代價補足ノ要求ニ服セス

（村田）唯一ノ代價ト云フハ如何（箕作）十把一束ノ代價ト云フカ如シ（北畠）坪數ト云フハ一區域ト云フ義カ（栗塚）坪ト云フ語ハ地面又反物等ニモ使用スヘシ



第六百八十八條 建物ノ存スルト否トチ問ハス數箇ノ土地チ一箇ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ唯一ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地ニ不足アルトキハ其坪ノ總數ニ從ハス其評價額ニ從ヒテ相殺ス  
此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルトキハ割合ヲ以テ代價ヲ増加シ又ハ之ヲ減少ス  
此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル各部分ノ面積ヲ指示シタル場合ニモ之ヲ適用ス

無異議

第六百八十九條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付キ權利ヲ有スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約束シタル面積カ其用方ニ必要ナルコトヲ證明シ且面積ヲ擔保セサルノ明言ナキ賣買ニ非サルトキハ契約ノ銷除ヲモ請求スルコトヲ得

民再調二ノ七七

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償スルコトヲ要スルトキハ單一ニ解約スルコトヲ得

(果塚)單一ニト云フヲ單純ニトシタシ(笑作)本條證明トアルハ即チ證據立ルト云フ義ニシテ疎明ト云フ義ニアラス(果塚)此點ハ證シト爲シ置キ追テ商法及ヒ訴訟法ト對査スヘシ可決ス  
單一ハ單純トスルニ決ス

第六百九十條 上ノ規定ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量カ買主ニ於テ容易且即時ニ調査スルコトヲ得サル日用品及ヒ動產物ノ賣買ニ之ヲ適用ス

無異議

第六百九十一條 前數條ヨリ生スル代價改正、損害賠償又ハ契約銷除ノ訴權ハ不動産ニ付テハ一年ノ期間動產ニ付テハ一个月ノ期間ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス



右期間ノ経過ハ賣主ニ在リテハ契約ノ日ヨリ買主ニ在リテハ引渡ノ日ヨリ始マル

(村田)第六百八十九條單純ニ解約スルコトヲ得ト云フハ契約銷除ニ屬スルヤ(南部)然リ(村田)他ノ場合ハ皆契約銷除トアルニ此場合ニハ單純ニ解約スルコトヲ得トアルヲ以テ不明了ニアラサルカ(南部)不明了ニアラス

第六百九十二條 第六百九十三條 第六百九十四條 第六百九十五條 第六百九十六條 第六百九十七條 第六百九十八條  
ハ傍聽ヲ欠ク

第六百九十九條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有者ト爲リタルトキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾スルヤ又ハ正當ノ賠償ヲ以テ擔保斷續ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルコトヲ何時ニテモ催告スルコトヲ得  
右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲リタル眞所有者ニ屬

削除建議

民再調二ノ七八

シ又眞所有者及ヒ賣主ニ相續シタル第三者ニ屬ス

(栗塚)本條ハ起案者ヨリ正當ノ賠償ヲ以テト云ヘルヲ賣買ヲ認諾スルヤノ上ニ轉置セリ(箕作)正當ノ賠償ヲ以テト云フハ  
刪ルヘシ可決ス

第七百條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買主カ右ノ部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣狹ニ因リテ有益ナルコトヲ證明スルトキハ全部追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ銷除スルコトヲ得  
買主ハ契約ノ銷除ヲ宣告セシメサルトキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

(栗塚)本條第二項ハ證明スルト云ヘルヲ證スルトシ第二項ハ契約ノ銷除ヲ宣告セシメト云ヘルハ契約銷除ノ判決ヲ得トシタ



リ（松岡）本條ハ意義摸稜ニ屬セリ（栗塚）追テ起案者ノ註解  
ヲ報告スヘシ

質賃借ニ關スル議

（南部）質賃借ハ物權ノ性質ナルヤ將タ人權ノ性質ナルヤ其概  
要ヲ決シテハ如何（笑作）逐條ヲ審議シタル上其物權タルカ人  
權タルヤヲ決シテハ如何（北島）質賃借ノ性質論ハ既ニ委員會  
ニ於テ論決シタルモノナレハホアソナート氏ノ駁撃ノ意見ヲ視  
ルモ爲ノニ委員會ノ定論ヲ動搖スルヲ得サルヘシ依テ同氏ノ意  
見ニ付之ヲ我邦ノ狀況ニ徴シ其慣習ニ支悟セサル部分ハ採用ス  
ルコトトシ最早其性質論ヲ再演スルニ及ハサルヘシ（委員長）  
人權ト物權トノ性質論ニ付テハ既ニ各報告委員ヲモ會集シ充分  
ノ論議ヲ喧鬧シタルモホアソナート氏ハ更ラニ反對ノ意見アル  
ニ付キ其性質論ハホアソナートノ意見ニ從ハサルヘカラス依テ  
質賃借上ヨリ出スル轉賃ノ如キ行爲ニ關スル方法ヲ可否シタシ  
（尾崎）轉賃ハ禁歎スヘシト云フニ決シタルニアラスヤ（委員



長一轉貸ノ可否ハ未タ決議ニ屬セサルナリ即チ其點ヲ議スヘシ  
ト云フニ可決ス

第四百十二條 (村田) 物權人權ノ性質論ハ停止シタリト雖トモ物  
權中ニ於テ讓渡スルヲ得サルモノアリヤ(北畠) 人權物權ノ論  
ニ立戻ラントスルハ不可ナリ(箕作) 第一項ノ但書ハ反對ノ慣  
習又ハ合意アルトキハ此限ニアラストシテハ如何(清岡) 慣習  
ト云フモ廣漠タル言詞ニシテ殆ント論種ヲ樹植スルモノト云フ  
ヘシ個ハ借受シタル物品ヲ更ラニ他ニ轉貸スルヲ得ヘキ慣習ア  
ルト思惟セサルナリ(栗塚) 慣習ノ文次ヲ挿入シタレハ法上ノ  
不都合ヲ顯出セサルナリ(南部) 慣習ノ文次ヲ挿入スレハ事實  
上ノ障害ヲ屏去スヘシ(清岡) 轉貸ノ實例ハ凡百ノ一分ニ止マ  
ルモノニシテ殆ント其習慣ナシ(栗塚) 資本家大地面ヲ借受ケ  
更ラニ之ヲ小作ニ附スルカ如キハ世上往々見ルヘキノ例アリ(

民再調二ノ八〇

清岡) 資本家カ政府ヨリ地面ヲ借受ケ更ラニ之ヲ小作ニ附スル  
場合ナキニアラスト雖トモ此等ハ殆ント稀少ナルヘシ(横村)  
本願寺ノ如キ其所有ニ係ル地面ノ如キハ皆之ヲ小作ニ附セリ結  
局但以下ハ但反對ノ慣習又ハ合意アルトキハ此限ニ在ラストス  
ルニ決ス(栗塚) 此議決ノ旨意ニ基キ逐條ハ更ラニ再調査案ヲ  
呈出スヘシ(箕作) 不動産ノ賃借ハ皆之ヲ登記スヘキヤ(栗塚)  
然リ(箕作) 然ラハ不動産ノ買得者モ賃貸ニ附シタル者タルヲ  
知ラサルノ憂ヒナカルヘシ



第七百一條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ銷除スルノ權利ヲ有ス

買主ハ契約ヲ銷除セシメサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ其買受代金ト契約費用トノ右部分ニ對當スル部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

(元尾崎) 第二項右部分ニ對當スル部分ト云フハ如何

(栗塚) 費用ノ部分ニ應スル金額ヲ云フ

(笑作) 第二項價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受クト云ヘルハ其損害ノ賠償ヲ受クルノミニシテ費用ノ部分ヲ取戻スヲ得サルカ如ク認メラル、ニアラスヤ

(栗塚) 道理上其憂ヒナカルヘシ(南部) 前條第二項買主ハ契約ノ銷除ノ判決ヲ得サルトアリシチ買主ハ契約ノ銷除ヲ求メザ



ルトキハトシ然ル上ニテ本條ヲ修正シテハ如何可決ス（栗塚）  
本條第二項モ買主ハ契約ノ銷除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格  
ノ減少シタルトキト雖モ常ニ右部分ニ對當スル買受代金ト契約  
費用トノ部分ヲ取戻シ又ハ其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ  
賠償ヲ受クトスヘシ

第七百二條 或ハ賣買ノ土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタ  
ル働方地役ノ追奪アリタルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲チ以  
テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財産ノ全部若クハ一分ニ存スル  
用益權質賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第七百條ノ  
規定ヲ適用ス但用益權又ハ賃借權ノ經過ス可キ殘餘時期カ建物ニ  
付テハ一個年土地ニ付テハ二個年ヲ超エサルトキニ限ル  
賣買ノ財産ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權ノ繼續時期カ建物ニ  
付テハ一個年土地ニ付テハ二個年ヲ超ユ可キトキハ買主ハ自己ニ

民再調二ノ八二

存留セル權利ノ不十分ナルヲ證明スルコトヲ要セスシテ第七百一  
條ニ從ヒ賣買ヲ銷除セシムルコトヲ得

（栗塚）本條第二項證明スルトアルハ證スルトシ第七百一條ト  
アルヲ前條トシ銷除セシムルコトヲ得トアルヲ銷除スルコトヲ  
得トスヘシ可決ス（栗塚）第二項ハ又ハ財産ノ全部若クハ以下  
ハ全ク原文ノ意義ニ反シタルヲ以テ又ハ財産ノ一分ニ存スル用  
益權質賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第七百條ノ規  
定ヲ適用ス財産ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權ニシテ其經過  
ス可キ殘餘時期カ建物ニ付テハ一個年土地ニ付テハ二ケ年ヲ超  
エサルモノニ關シテモ亦同シトスヘシ可決ス（松岡）繼續時期  
ト云フモ殘餘時期ト云フモ同一意義ニアラスヤ（栗塚）然リ

第七百三條 契約ニ於テ述ヘタルト否トチ問ハス賣買ノ土地ニ先取  
特權又ハ抵當權ノ負擔アリテ買主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ



時其土地ヲシテ右ノ負擔ヲ免カレシムル爲メニ必要ナル方式ヲ履  
行セサルニ因リ賣主ノ債權者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラレタルト  
キハ買主ハ賣主ニ對シ第六百九十五條及ヒ第六百九十六條ノ規定  
ニ從ヒテ擔保ノ求償權ヲ有ス

無異議

第七百四條 差押ヘタル財産ノ競落者カ追奪ヲ受ケタルトキハ被差  
押人ニ對シテ代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力  
ナルニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ返還  
ヲ求ムルコトヲ得

競落者ハ差押人カ差押ノ際ニ其財産ノ債務者ニ屬セサルコトヲ知  
リタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債  
務者カ其財産ニ存スル第三者ノ債利ヲ詭誑ヲ以テ隱蔽シタルニ非  
サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

民再調二ノ八三

公賣條件書ノ錄製及ヒ競落ノ處理ニ任シタル公吏ハ甚シク其職分  
ヲ缺キタル爲メ買主ノ錯誤ヲ惹起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責  
ニ任セス

(栗塚)詭誑ノ文字ハ例ニ從ヒ詐欺トスヘシ(笑作)第二項ノ  
債務者ト云フハ第一項ノ被差押人ト同一人ナルヤ(南部)然リ

第七百五條 債權ノ賣主ハ當然自己ノ債權ノ存立及ヒ其有効ノ擔保  
ニ任ス

又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ約束シタルニ非サレハ  
其擔保ニ任セス

有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ債權カ既ニ滿期ト爲  
リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取りタル代  
金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保ノ明約ト裏書ヲ  
以テ讓渡ス商證券ノ特別規則トチ妨ケス



未タ満期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ  
債務者ノ將來ノ有資力ヲ擔保シタルトキハ其擔保ハ滿期ヨリ一ケ  
年又無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十ケ年ニテ絶止ス

（元尾崎）第三項ハ債權ノ滿期ト爲リタルモノヲ讓渡シタルト  
キチ云フニアリヤ（南部）然リ（元尾崎）明約アルトキハ此限  
リニアラス又裏書讓渡ヲ爲ス商證券ハ商法ノ規定ニ從ヒ本條ノ  
支配ヲ受ケサルチ云フカ（栗塚）然リ（元尾崎）明約トアルチ  
明約アルトキハ此限ニ在ラストシテハ如何原案ニ決ス

第七百六條 物上ト對人トチ問ハス争ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓  
渡人ハ特別ノ契約ナク且讓受人カ争ヒ有ルコトヲ知リタルトキハ  
其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノミニシテ讓渡シタル權利  
ノ眞ノ成立ヲ擔保セス

裁判上ト裁判外トチ問ハス權原ニ關スル明白ノ争ノ目的タル權利

ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス

本條ニ定メタル擔保ニ任スル讓渡人ハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人  
カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス

（元尾崎）第三項權原ニ關スルト云フハ如何（栗塚）所有權ニ  
關スルト云フカ如シ（松岡）占有中ニモ權原ナキニアラス所有  
權ト占有權トチ駢ヒタルトキハ所有權ヲ以テ權原トスヘシ

第七百七條 相續人又ハ包括名義ノ受遺者トシテ既ニ發關シタル相  
續ノ全部又ハ一分ニ係ル不分ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其賣渡シタ  
ル部分ニ付キ自己ノ權利ノ存立ヲ擔保ス

右賣主ハ定マリタル得益ヲ擔保スルコトヲ明言シタルニ非サレハ  
其擔保ニ任セス又賣主カ其相續又ハ受遺ノ部分ヲ特定セスシテ單  
ニ自己ノ權利ヲ賣渡シタルトキハ買主ハ相續人又ハ受遺者ノ増減  
ヨリ生スル得益ノ増減ヲ受ク



第七百八條 相續權ノ買主ハ相續ノ債務ニ對スル日後ノ訴追ニ付キ  
賣主ヲ擔保スルコトヲ要ス

又賣主カ相續ノ債務ノ全部若クハ一分ヲ既ニ辨濟シ又ハ財産ヲ保  
存スル爲メニ費用ヲ出シ又ハ自ラ相續ニ對シテ債權ヲ有スルトキ  
ハ買主ハ之ヲ賣主ニ計算スルコトヲ要ス

右ニ反シテ賣主ハ自ラ相續ニ對シテ負擔スル債務相續ノ債權ニ付  
キ受取りタル利得及ヒ相續ヨリ收取シタル其他ノ利益ヲ買主ニ計  
算スルコトヲ要ス

(粟塚)此兩條ハ相續ノ賣買ヲ規定シタルモノニシテ恰モ舊幕  
時代五家人株ヲ賣買シタル事實ニ類スヘキヲ以テ相續ノ賣買ト  
云フモノ稀レニ生セサルニアラサルヘシ然ルニ此ノ如キハ相續  
編ノ規定ヲ待タサレハ之ヲ賣買編ニ明記シ世人ノ輿意ヲ博スル  
如キ憂ヒ勿ラシメタシ(委員長)此兩條ヲ全刪スレハ此點ニ對

民再調二ノ八五

スル事項ハ欠如ニ屬スルヲ以テ人事編ニ送入スヘキ規準ヲ定メ  
置カサルヘカラス(元尾崎)相續ヲ賣買スルト云フ事件ヲ許ス  
ヤ否ヲ明決セサレハ何レニモ之ヲ明記スルヲ得サルナリ(委員  
長)浴場營業ノ如キハ相續ヲ賣買スルコトアラサルカ(南部)  
浴場ノ賣買ハ多クハ其株ノ賣買ニシテ相續ノ賣買ニアラス(委  
員長)假令ハ醫藥家ニ成長シタル人子ニシテ箕裘ノ業ヲ繼ク能  
ハサルヨリ自ラ他ノ事業ニ從事セントシテ從來ノ家業ハ之ヲ讓  
與スル場合ナシトセス(粟塚)相續ヲ買受ケタル者ハ其權利義  
務ヲ擔當セサルヲ得サルヘシ(委員長)家名ヲ舉ケテ之ヲ賣讓  
スルトキハ其權利義務ヲモ擔當スヘキモ相續ノ一分ヲ賣却スル  
カ如キハ然ラサルヘシ(尾崎)人事編規定ニ讓リ置クヘシ其讓  
ニ決ス

第七百九條 特定又ハ包括ノ民事又ハ商事ノ會社ニ於ケル自己ノ權



利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其賣買契約ニ示セル權利ノ  
廣狹ニ付テノミ擔保ニ任ス

會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算済ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ  
義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ホスコト無シ

賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

（栗塚）營業ノ文字ハ營業ノ誤ナリ（元尾崎）民事會社ト云フ  
ハ如何（栗塚）商法ニハ民事ノ目的ヲ以テスル會社モ之ヲ商事  
會社ト看做ストアルヲ以テ其他ニ民事會社ノ設立ハ稀少ナルヘ  
シ（箕作）株式會社ナレハ民事ノ目的ヲ以テスルモノト雖トモ  
之ヲ商事會社ト看做スヘキモ民事上ノ合名會社ハ民事會社ト云  
ハサルヘカラス（委員長）開業會社ノ如キハ民事會社ナルヘシ  
（村田）開業會社ハ大抵株式上ニ成立スルモノナリ（元尾崎）  
赤十字社ハ如何（栗塚）赤十字會社ノ如キハ公役所ト云フニ屬

民再調二ノ八六

スヘシ（南部）又ハ商事ノト云フ字ヲ刪除スルニ止ムヘシ民事  
會社ハ存立セサルモノトスルヲ得サレハナリ（栗塚）民事會社  
ナリ商事會社ナリ其權利ヲ賣却シタルトキハ其擔保ノ責ニ任セ  
サルヘカラスト云フニアレハ冒頭ハ會社ニ於ケル云々トシ「特  
定又ハ包括ノ民事又ハ商事ノ」ト云フ字ヲ刪除シテハ如何可決  
ス

第七百十條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタ  
ルトキト雖モ買主力追奪ヲ受ケタルニ於テハ賣主ハ代金ヲ返還ス  
ルノ責ニ任ス但買主力賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危險アルコトヲ了知  
シタルトキハ賣主ハ此返還ヲ負擔<sup>セ</sup>ス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミ  
ニ因リテ亦代金ヲ返還スルノ責ヲ免カル

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣



買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨碍又ハ追  
奪ノ擔保ヲ免カル、コトヲ得ス

（元尾崎）無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲スモノアリヤ（栗  
塚）賣買上ニ無擔保ナルハ殆ント稀少ナルヘシ

第七百十一條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一分ヲ買主ノ惡意ノ故  
ヲ以テ免カレント主張スルトキハ賣渡物ニ關スル行爲ヲ第三者ノ  
利益ノ爲メニ登記シタリト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證  
明スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官ノ保證書ニ依リ又ハ其他ノ方法  
ヲ以テ買主カ賣買ノ前ニ右ノ行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供ス  
ルコトヲ要ス

（栗塚）本條ハ登記シタリトアルヲ登記シ有リトシタシ可決ス  
（村田）證明スルトアルハ證スルトスヘキヤ（栗塚）然リ（美  
作）第三者ノ上「行爲ヲ」トアルハ「行爲カ」トスヘシ可決ス

民再調二ノ八七

（松岡）惡意ト云フハ可ナルヤ（栗塚）惡意トハ之ヲ知リシモ  
ノヲ云フ

第七百十二條 第四百十九條及ヒ第四百二十條ハ擔保ノ爲メニスル  
賣主ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加  
セシタサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

無異議



第三款 買主ノ義務

第七百十三條 買主ハ約束シタル時期ニ於テ代金ヲ辨済スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ契約ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ辨済スルコトヲ要ス

引渡ヲ日後ニ延フルノ契約アルトキハ當事者ニ代金ノ辨済ヲ暗ニ日後ニ延フルノ意思アリト推定ス

賣主カ引渡ノ爲ノ恩惠期間ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金辨済ノ爲ノ同一ノ期間ヲ享有ス

又代金辨済ノ恩惠期間ハ引渡ノ爲ノ賣主亦之ヲ享有ス

(栗塚)本條ハ約束及ヒ契約ノ文字ハ皆之ヲ合意トシ第四項亦ヲ刪ルヘシ(委員長)亦ハ存在セシムヘシ(栗塚)亦ヲ存スレハ同項ノ上又ノ字ヲ刪ルヘシ可決ス

第七百十四條 代金辨済ノ場所ヲ約束セサルトキハ其辨済ハ有體動産



ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産、債權、相續ノ權利、争ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス

引渡ノ前後ヲ問ハス代金辨濟ノ要求ヲ受ク可キトキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

(栗塚)本條ハ第一項相續ノ權利ト云ヘルヲ削リ第二項ハ引渡ノ前後ヲ問ハストアルヲ引渡ノ前又ハ後ニト代金辨濟ノ要求ヲ受クヘキトアルヲ代金辨濟ノ辨濟ヲ要求ス可キトシタシ(委員長)要求ヲ受ク可キト云フヲ可トス(松岡)要求ヲ受ク可キト云フハ不可ナリ(南部)辨濟ヲ要求ス可キトセサレハ明了ナラス(箕作)辨濟ヲ要求スルコトヲ得可キトキトスヘシ可決ス

第七百十五條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス

反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ契約又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス(栗塚)契約ノ文字ハ例ニ從ヒ合意トスヘシ

第七百十六條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨礙ヲ受ケ又ハ妨礙ヲ受クルノ危險アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ賣主カ其妨礙若クハ危險ヲ止マレノ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スルノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ右訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證明スルコトヲ得ルトキハ賣買ノ無効ヲ宣告セシノ及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フ買主ノ權利ヲ妨ケス

(栗塚)妨礙ヲ受クルノ危險アルト云ヘルハ妨礙ヲ受クルノ恐れアルトシタシ妨礙ヲ受ントスル恐れアル情況ヲ指シタルモノナレハナリ(委員長)止マシメト云ヘルハ止マシムルマテト云



フ義ナルヘシ（元尾崎）止マシムルマテトシタシ（南部）マテ  
ハ明記セサルモ明カナリ（栗塚）危険アルハ恐レアルトシ末項  
ハ證明スルトアルチ證スルトシ無効チ宣告セシメトアルチ無効  
ノ判決ヲ求メトスヘシ可決ス

第七百十七條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記  
アルトキハ買主ハ解除ノ方式ヲ行フタル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟  
スルノ責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ解除チ行フコトヲ要ス

（栗塚）本條登記ノ文字ハ記入ノ誤ナリ

第七百十八條 前三條ノ場合ニ於テ賣主ノ先取特權及ヒ第三者ニ對  
スル解除ノ權利ヲ保存スル爲メ必要ノ方式ヲ行ハサルトキハ賣主  
ハ當事者双方ノ名ヲ以テ買主ヲ猶豫ナク代金ヲ供託セシメ當事者  
双方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リテ諸手續ノ終了後ニ非サレハ  
其代金ヲ引取ルチ得サルノ處分ヲ要求スルコトヲ得

民再調二ノ九〇

（栗塚）本條ハ猶豫ナクノ文字以下ハ代金ヲ供託セシムルコト  
ヲ得但當事者双方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決アルモ諸手續ノ終了  
後ニ非サレハ其代金ヲ引取ルコトヲ得サルノ方法ニ依ルコトヲ  
得トシタシ（松岡）裁判所ノ判決アルモト云フハ不明ナリ（栗  
塚）裁判所ノ判決アルニ非サレハト云フ意義トセサルヘカラス  
結局猶豫ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但其代金ハ當事者双  
方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ  
之ヲ引取ルチ得ストス

第七百十九條 動產物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トチ問ハス引  
渡チ受タル權利ヲ有スル時ニ於テ其引渡チ受ケサルトキハ賣主ハ  
第四百九十五條乃至第五百條ニ從ヒテ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ  
爲スコトヲ得

然レトモ日用品其他速ニ敗損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ



之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

(栗塚)本條第二項ハ然レトモ日用品其他速ニ敗損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ買主ノ爲ノ其轉賣ヲ爲スコトヲ得トシテハ如何(村田)原案ノ儘ニテ可ナリ可決ス

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第七百二十條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ欠キタルトキハ他ノ一方ハ第四百四十一條乃至第四百四十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期間ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得ス然レトモ此解除ハ履行ヲ欠キタル當

事者ヲ遲滞ニ付シタルモ猶ホ履行セサルトキニ非サレハ當然其効力ヲ生セス

無異議

第七百二十一條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ欠キタル爲ノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ヲ皆濟セサルコトヲ記載シ又ハ其責任タル負擔及ヒ條件ヲ明示シタル賣買證書ヲ登記シタルニ非サレハ賣主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス但第千八百八十七條ノ規定ヲ妨ケス

(第二項起業者刪除)

(栗塚)代金ヲ皆濟セサルコトトアルハ代金ノ全部若クハ一分ヲ負擔スルコトヲ記載シト云ヘル意味ニハ恰當セサルニ依リ議決案ノ精神ニ反セリト思惟ス依テ代金ノ全部若クハ一分ヲ負擔スルコトヲ記載シトシヌハ其責任タル負擔トアル負擔ノ上ニ他



ノ字ヲ加ヘタシ可決ス

第七百二十二條 辨濟期限ヲ定メ有ル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ辨濟ヲ欠キタル爲メノ賣主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス  
辨濟期限ノ定メ無キ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除セシムルコトヲ得然レトモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス  
(栗塚)本條ハ第一項冒頭ニ記載セル辨濟期限ヲトアルヲ辨濟期限ノトスヘシ可決ス(清岡)解除セシムルト云ヘルハ解除スルトシタシ(栗塚)解除セシムルト云フハ裁判所ニ對シテト云フ意義ニアラス相手方ニ對シト云フ意味ナリ(尾崎)解除スルトシタシ可決ス

第二款 受戻權能ノ行使

民再調二ノ九二一

第七百二十三條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルトキハ其賣買ヲ解除スル權能ヲ要約スルコトヲ得  
右期間ハ不動産ニ付テハ五ケ年動産ニ付テハ二ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス  
一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限內ト雖トモ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

然レトモ其伸長ハ之ヲ買戻ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テハ第六百六十三條及ヒ第六百六十四條ノ規定ニ從フ(然レトモ其伸長ハ單ニ之ヲ買戻ト看做スコトヲ得此項ニ合併スルノ建議) 賣買後ニ於テ爲シ又ハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ

賣主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ

修正建議



爲ノ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有効ニ受戻ノ機能ヲ要約スルコトヲ得ス

(南部)報告委員ニ於テハ括弧中ハ削除シタシトス(栗塚)第四項買戻ノ豫約ト云ヘルハ再賣ノ豫約ト云フ意義ナリ(元尾崎)再賣買ノ豫約トスヘシ可決ス(松岡)期間ヲ伸長シタルトキハ再賣買トモス更新ト認メテハ如何(南部)更新トスルトキハ既往ニ遡ルノ結果ヲ生スルヲ以テ不可ナリ(栗塚)第五項「又ハ別證書ノ文字ハ削除シテハ如何賣買後ニ於ケル要約ハ別證書ナルコト言ヲ要セス(元尾崎)賣買後ニアラサルモ別證書ヲ以テスル場合ナキニアラス(清岡)不動産ノ買戻ヲ五ケ年ノ期限ニ止ムルハ不都合ナリ田舎ノ情況ニ於テ不動産ノ買戻ヲ五ケ年以内ニ爲スヲ得サルナリ(松岡)不動産ノ買戻ヲ爲サシメントスルモ之ヲ第三者ノ手裡ニ移付シタルトキハ買戻スヲ得サルヘシ(

元尾崎)不動産ハ二ケ年トシ不動産ハ十ケ年ノ期限トシテハ如何(松岡)解除ト再賣買トノ區別ヲ付セントスルモ實際上ニ差異ナシ賣者ハ買戻期限マテハ其中間ニ在テ所有權轉々スルモ之レニ關係セサルヘシ(南部)解除ト云ヘハ既往ニ遡ルヘキ權利義務アルモ再賣買ト云フハ然ラス(委員長)其期限ハ十ケ年ヲ可トスルヤ五ケ年ヲ可トスルヤト云フヲ決スヘシ(栗塚)賣者ノ利害ヲ慮リ買者ノ利害ヲ等閑ニ附スルヲ得サルナリ(南部)年限ノ如キハ權衡上ニ關スルヲ以テ注意アルヘシ即チ十ケ年ヲ期限トスルノ說ハ否決セラル(元尾崎)第六項ハ全ク贅冗ニ付キ削除シタシ此儘ニ付ス

第七百二十四條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻機能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排脫シテ其不動産ヲ

但書ハ原案ニ據リテ之ヲ補フ



賣主ニ復セシム但賃貸借ノ殘期ノ三ケ年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス

動產物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動產物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

(松岡)本條第一項但書ハ疊ニ刪除シタルモ再調査ニ於テハ之ヲ存在セシメントスルヤ(栗塚)然リ(松岡)前議決ノ旨ヲ可トス(南部)管理所爲ノ上ニ於テ必要アルヘシ(松岡)賣者ハ金圓ノ調達シ賣地ノ受戻シヲ爲サントスルニ三ケ年間ハ之ヲ爲スヲ得サルト云フハ不可ナリ(栗塚)受戻ニハ差支ナシ只第三者ニ小作セシメシ場合ニ於テハ買戻ヲ爲シタル者ハ三ケ年間其小作人ヲシテ利益ヲ得セシメサルヘカラストス(松岡)受戻シヲ爲スヘキモ未タ當季ノ收穫ヲ得サルニ其植苗ヲ拔除セシムルト云フニアラス(元尾崎)三ケ年ハ一ケ年トシ置クヘシ可決ス

民再調二ノ九四

第七百二十五條 賣主ノ債權者ハ賣主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得

然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證明シ且第三百五十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得

買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第七百二十七條ニ從ヒテ賣主ヨリ己レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ違スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコトヲ得

(栗塚)本條第二項證明シトアルハ原語ハエタフリートアリ(笑作)エタフリーハ證シトシテ差支ナシ可決ス

第七百二十六條 賣主カ受戻ノ契約ヲ以テ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルトキハ其權利ノ効力ハ



賣主自身又ハ其債權者ノ受戻權能ノ行使ニ從フ

賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ賣主ノ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨礙スルコトヲ得ス但其擔保訴權ヲ失フコト無シ

(果報)本條第一項契約ノ文字ハ約款トスヘキ誤ナリ

第七百二十七條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣買代金及ヒ契約費用ノ外尙ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ要ス

買主カ右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ擔與ナク之ヲ供託スルコトヲ要ス

賣主ハ物ノ改良費用ヲモ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償ニ付テハ賣主ニ擔與ヲ許スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受ルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス

(果報)本條ト同シク第七百十九條第一項其引渡ヲ受ケサルトキハトアルチ其引渡ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハトスヘシ可決ス

第七百二十八條 受戻ノ契約アル賣買カ共有ノ不分ノ部分ヲ目的トシタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレタル競賣ニ因テ其全部ノ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競賣ノ代金ヲ加ヘテ其全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス

又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述ルコトヲ得ス

買主カ自ら競賣ヲ促シタルトキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ爲スコトヲ得

又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述ルコトヲ得



(栗塚)本條第一項ハ契約ヲ約款トシ賣買力共有ノ不分ノ部分トアルハ賣買力不動産ノ不分ノ部分トシタシ可決ス

第七百二十九條 孰レヨリ競賣ヲ促カシタルヲ問ハス買主ニ非サル共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレサリシトキハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ競落人ニ對シテ受戻ノ權利ヲ有シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

(渡)之ニ反スルトキト云フハ如何(松岡)召喚セラレタルトキチ云フ

第七百三十條 現物ヲ以テ分割シタルトキ賣主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ賣主ハ孰レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハス他ノ所有者ニ販シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシテ買主ニ販シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得但當事者双方カ買主ノ供與シ又ハ受取りタル補足代金ヲ互ニ計算スルコトヲ妨ケス

民再調二ノ九六

賣主カ分割ニ召喚セラレサリシトキハ賣主ハ選擇ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第七百二十七條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ辨償シテ共有者ニ對シテ再分割ヲ促カスコトヲ得

(元尾崎)當事者ト云フハ賣主買主ヲ云フカ(栗塚)分割者ヲ指スヘシ當事者双方カト云フ文字ヲ關リ互ニトアル上ニ當事者ノ文字ヲ加ヘテハ如何可決ス

第七百三十一條 不分物ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ條件ヲ以テ賣渡シタルトキハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受ルノ實ナシ

又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述ルコトヲ得唯一人ノ賣主カ數人ノ相續人ヲ遺シテ死亡シタルトキモ亦本條ノ規定ニ從フ

但書刪  
除建議



之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ爲スコトヲ得但第七百二十八條及ヒ第七百三十條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

(果塚)條件ノ文字ハ約款ノ誤ナリ又第四項買頭之ニ反シトアルハ此ニ反シトスヘシ可決ス

第七百三十二條 數人ノ買主カ一箇ノ契約ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻ノ條件ニテ取得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ爲サ、ル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ受戻ヲ爲スコトヲ得既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣ニ因リテ其各自ニ販シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ爲スコトヲ得唯一人ノ買主カ數人ノ相續人ヲ遺シテ死亡シタルトキモ亦本條ノ規定ニ從フ

民再調二ノ九七

(果塚)本條第一項條件ノ文字ハ約款ノ誤ナリ又受戻ヲ爲スコトヲ得トアル上ニ其各自ノ部分ニ付キノ數字ヲ挿入スヘキ必要アリ(元尾崎)各自ノ部分トアルモ一人若クハ數人ニ對スルトキハ次項ヲ以テ處分スルヲ得ヘキニアラスヤ(箕作)原文ハ併合シ各別ニト云フ意義ナリ(元尾崎)各自ノ不分ノ部分ニ付キトシテハ如何(村田)分割ヲ爲サ、ル前ニトアルヲ以テ不分ノ字ハ贅ナリ(清岡)其各自ノ部分ニ付キト云フ字ヲ加フレハ可ナリ可決ス

第三款 欠損ニ因ル銷除

第七百三十三條 不動産ノ買買ヲ契約ノ日ニ於ケル實價ノ半額以下ノ代價ニテ爲シタルトキハ賣主ハ欠損ノ爲ノ其銷除ヲ請求スルコトヲ得但賣主カ契約ヲ以テ明示ニテ此銷除ノ權利ヲ拋棄シ又ハ代金ノ補足ヲ拋棄スルコトヲ述ヘタルトキモ亦同シ

本條刪  
除建議



但書ハ原  
案ニ載セ  
ス

欠損ニ因ル銷除ハ代價ヲ當事者ノ協諾シタル第三者ニ定メシメタ  
ルトキハ之ヲ許サス但第六百七十條第三項及ヒ第四項ノ適用ヲ妨  
ケス

第七百三十四條 銷除ハ賣買力有條件ナルトキト雖モ契約ノ時ヨリ  
二ケ年内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

此期間ハ賣買契約ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得ス但日後特別契約  
ヲ以テ其期間ヲ短縮スルコトヲ得

受戻ノ權能ヲ要約シタルトキハ受戻ト銷除トノ二箇ノ期間ハ最短  
キ期間ニ滿ツルマテ混同ス

第七百三十五條 賣買ノ日ニ於ケル不動産ノ價格ハ證書、證人又ハ  
鑑定人ヲ以テ之ヲ證明ス

當事者ハ常ニ各一人ノ鑑定人ノ選任ヲ請求スルコトヲ得  
總テノ場合ニ於テ裁判所ハ職權ヲ以テ一人ノ鑑定人ヲ選任スルコ  
トヲ要ス

民再調二ノ九八

トヲ要ス

右ノ外本法第五篇及ヒ民事訴訟法ノ鑑定ニ關スル總般ノ規定ニ從  
フ

第七百三十六條 欠損ニ因ル銷除ハ第三百七十二條第一項ニ從ヒテ  
爲シタル請求ノ公示ニ先タテ證書ヲ登記シタル物權ノ轉得者ニ對  
シ之ヲ行フコトヲ得ス

第七百三十七條 買主カ第五百七十六條ヲ以テ許與セル代價補足ノ  
權能ヲ行ハント欲スルトキハ其請求ノ日ヨリ補足代金ノ利息ヲ負  
擔ス

買主カ買受物ヲ返還セント欲スルトキハ其辨濟シタル代金ヲ請求  
後ノ利息ト共ニ受取り且請求後ニ收取シタル果實ヲ返還ス

第二項ノ場合ニ於テ買主ハ代金及ヒ其利息ノ皆濟ヲ受クルマテ物  
ヲ占有スルコトヲ得